

vCenter Server Appliance の構成

Update 2

2020 年 1 月 26 日

VMware vSphere 6.7

VMware ESXi 6.7

vCenter Server 6.7

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>)

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

VMware株式会社
〒108-0023 東京都港区芝浦 3-1-1
田町ステーションタワー N 18 階
www.vmware.com/jp

Copyright © 2009-2020 VMware, Inc. All rights reserved. 著作権および商標情報。

目次

更新情報 5

vCenter Server Appliance の構成について 6

1 vCenter Server Appliance の概要 7

2 アプライアンス管理インターフェイスを使用して vCenter Server Appliance を設定する 9

vCenter Server Appliance 管理インターフェイスへのログイン 10

vCenter Server Appliance の健全性ステータスの確認 10

vCenter Server Appliance の再起動またはシャットダウン 11

サポート バンドルの作成 11

CPU とメモリ使用率の監視 12

ディスク使用率の監視 12

ネットワーク使用の監視 13

データベース使用の監視 13

SSH と Bash シェル アクセスの有効化または無効化 14

DNS、IP アドレス、およびプロキシの設定 14

プライマリ ネットワーク ID の再設定 16

vCenter Server Appliance のファイアウォール設定の編集 17

システムのタイムゾーンおよび時刻同期の設定の構成 17

サービスの起動、停止、および再起動 18

更新設定 19

root ユーザーのパスワードおよびパスワード有効期限の設定の変更 19

vCenter Server Appliance のログ ファイルを リモート Syslog サーバへ転送 20

バックアップの設定およびスケジューリング 21

3 vSphere Client と vSphere Web Client を使用した vCenter Server Appliance の設定 23

Active Directory ドメインでの参加と離脱 23

SystemConfiguration.BashShellAdministrators グループへのユーザーの追加 26

vCenter Server Appliance へのアクセス設定の編集 26

vCenter Server Appliance の DNS と IP アドレス設定の編集 27

vCenter Server Appliance のファイアウォール設定の編集 29

サービスの起動設定の編集 30

ノードの再起動 31

サービスおよびノードの健全性ステータスの表示 31

サービス設定の編集 32

サポートバンドルのエクスポート 33

4 アプライアンス シェルを使用して vCenter Server Appliance を設定する 35

アプライアンス シェルへのアクセス 35

アプライアンス シェルからの Bash シェルへのアクセスおよび Bash シェルを有効にする 36

コマンドを編集するためのキーボード ショートカット 36

アプライアンスのプラグインおよび API コマンドに関するヘルプの表示 37

vCenter Server Appliance シェルのプラグイン 38

showlog プラグインを使用したログ ファイルの参照 39

vCenter Server Appliance シェルの API コマンド 39

vCenter Server Appliance の SNMP の構成 45

ポーリングを行う SNMP エージェントの構成 45

SNMP v1 および v2c 用の vCenter Server Appliance の構成 46

SNMP v3 用の vCenter Server Appliance の構成 47

通知をフィルタリングするように SNMP エージェントを構成する 51

SNMP 管理クライアント ソフトウェアの構成 52

工場出荷時の設定への SNMP 設定のリセット 52

vCenter Server Appliance の時刻同期設定の構成 53

VMware Tools の時刻同期の使用 53

vCenter Server Appliance 構成内の NTP サーバの追加または置換 54

vCenter Server Appliance と NTP サーバとの時刻同期 55

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの管理 55

vCenter Server Appliance のユーザー ロール 55

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウント リストの取得 56

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの作成 56

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの更新 57

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの削除 57

vCenter Server Appliance の健全性ステータスおよび統計の監視 58

サービスのリソース使用量を監視する vimtop プラグインの使用 59

対話モードでの vimtop を使用したサービスの監視 59

対話モードのコマンドライン オプション 59

vimtop の対話モードの単一キー コマンド 60

5 ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスを使用して vCenter Server Appliance を設定する 62

ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスへのログイン 62

root ユーザーのパスワードの変更 63

vCenter Server Appliance の管理ネットワークの構成 64

vCenter Server Appliance の管理ネットワークの再起動 65

アプライアンス Bash シェルへのアクセスの有効化 65

トラブルシューティングのためのアプライアンス Bash シェルへのアクセス 65

トラブルシューティングのための vCenter Server サポート バンドルのエクスポート 66

更新情報

『vCenter Server Appliance の構成』は、製品のリリースごとに、または必要に応じて更新されます。

『vCenter Server Appliance の構成』の更新履歴については、次の表をご確認ください。

リビジョン	説明
2019 年 9 月 11 日	プライマリ ネットワーク ID の再設定 にインストラクションを追加
2019 年 3 月 14 日	初期リリース。

vCenter Server Appliance の構成について

『vCenter Server Appliance の構成』では、VMware vCenter[®] Server Appliance[™] の構成に関する情報を提供します。

対象読者

この情報は、vCenter Server Appliance を使用して VMware vCenter Server[®] や VMware Platform Services Controller[®] を実行するユーザーを対象としています。記載されている情報は、読者に Windows または Linux のシステム管理者としての経験があり、仮想マシンテクノロジーおよびデータセンターの運用に詳しいことを想定しています。

vSphere Web Client および vSphere Client

本書の説明は、vSphere Client (HTML5 ベースの GUI) に対応しています。ここに記載のガイダンスは、vSphere Web Client (Flex ベースの GUI) を使用したタスクで使用できます。

vSphere Client と vSphere Web Client でワークフローが大きく異なるタスクでは、各クライアント インターフェイスに応じたステップが提供され、手順が重複しています。vSphere Web Client に関連する手順は、タイトルに vSphere Web Client が含まれています。

注： vSphere 6.7 Update 1 では、vSphere Web Client 機能のほぼすべてが vSphere Client に実装されています。サポート対象外の残りの機能を記載した最新のリストについては、「[vSphere Client の機能の更新](#)」を参照してください。

vCenter Server Appliance の概要

1

vCenter Server Appliance は事前に構成された Linux の仮想マシンであり、Linux 上で VMware vCenter Server[®] サービスおよび関連サービスを実行するために最適化されています。

アプライアンスのデプロイ中に、デプロイ タイプ (Platform Services Controller が組み込まれた vCenter Server をデプロイするか、Platform Services Controller をデプロイするか、外部 Platform Services Controller を備えた vCenter Server をデプロイするか) を選択します。Platform Services Controller アプライアンスをデプロイするとき、VMware vCenter[®] Single Sign-On™ ドメインを作成するか、または既存のドメインに参加することができます。vCenter Server と Platform Services Controller のデプロイ タイプ、および外部 Platform Services Controller インスタンスを使用したデプロイ トポロジについては、『vCenter Server のインストールとセットアップ』を参照してください。

vCenter Server Appliance は、VMware ESXi™ 5.5 以降でサポートされています。アプライアンスのパッケージには、次のソフトウェアが含まれています。

- Project Photon OS[®] 1.0
- PostgreSQL データベース
- vCenter Server 6.7 および vCenter Server 6.7 のコンポーネント
- vCenter Server の実行に必要なサービス (vCenter Single Sign-On、License Service、VMware Certificate Authority など) がすべて含まれる Platform Services Controller

Platform Services Controller の詳細については、『Platform Services Controller の管理』を参照してください。

vCenter Server Appliance のカスタマイズはサポートされません (メモリ、CPU、ディスク容量の増設を除く)。

vCenter Server Appliance には、以下のデフォルトのユーザー名があります。

- 仮想アプライアンスのデプロイ時に設定したパスワードを持つ root ユーザー。root ユーザーは、vCenter Server Appliance 管理インターフェイスとアプライアンスの Linux オペレーティング システムへのログインに使用します。

重要: vCenter Server Appliance の root アカウントのパスワードは、デフォルトでは 365 日後に期限が切れます。root パスワードの変更とパスワードの有効期限の設定については、[root ユーザーのパスワードおよびパスワード有効期限の設定の変更](#)を参照してください。

- administrator@your_domain_name。これは、アプライアンスのデプロイ時に設定したパスワードとドメイン名を持つ vCenter Single Sign-On ユーザーです。

vSphere 5.5 では、このユーザーは administrator@vsphere.local です。vSphere 6.0 では、vCenter Server をインストールするときまたは、新しい Platform Services Controller が組み込まれた vCenter Server Appliance をデプロイするときに、vSphere ドメインを変更できます。Microsoft Active Directory や OpenLDAP のドメイン名と同じドメイン名を使用しないでください。

最初は、ユーザー administrator@your_domain_name のみが、vCenter Server Appliance 内の vCenter Server システムにログインできる権限を持っています。デフォルトでは、administrator@your_domain_name ユーザーは SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーです。このユーザーは、追加ユーザーやグループが定義される ID ソースを vCenter Single Sign-On に追加し、ユーザーやグループに権限を付与できます。詳細については、『vSphere のセキュリティ』を参照してください。

vCenter Server Appliance のアクセスと vCenter Server Appliance 設定の編集は、次の 4 つの方法で行うことができます。

- vCenter Server Appliance 管理インターフェイスを使用する。

vCenter Server Appliance のシステム設定（アクセス、ネットワーク、時刻同期、root パスワード設定など）を編集できます。これは、アプライアンスを編集するための推奨される方法です。

- VMware vSphere[®] Web Client を使用する。

vCenter Server Appliance のシステム構成に移動し、アプライアンスを Active Directory ドメインに参加させることができます。vCenter Server Appliance で実行中のサービスを管理し、アクセス、ネットワーク、ファイアウォールなどのさまざまな設定を変更できます。

- アプライアンス シェルを使用する。

TTY1 を使用してコンソールにログインしたり、SSH を使用して vCenter Server Appliance で構成、監視、トラブルシューティングのコマンドを実行したりできます。

- ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスを使用する。

TTY2 を使用して vCenter Server Appliance のダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスにログインし、root ユーザーのパスワードの変更、ネットワーク設定、Bash シェルまたは SSH へのアクセスを有効にすることができます。

vSphere 6.5 以降、vCenter Server Appliance では高可用性がサポートされます。vCenter High Availability クラスタでの vCenter Server Appliance の構成については、『vSphere の可用性』を参照してください。

vSphere 6.5 以降では、vCenter Server Appliance と Platform Services Controller アプライアンスで、ファイル ベースのバックアップとリストアがサポートされます。バックアップとリストアについては、『vCenter Server のインストールとセットアップ』を参照してください。

アプライアンス管理インターフェイス を使用して vCenter Server Appliance を設定する

2

vCenter Server Appliance のデプロイ後に、vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインしてアプライアンスの設定を編集できます。



vCenter Server Appliance 管理インターフェイスの強化

(https://vmwaretv.vmware.com/embed/secure/iframe/entryId/1_qc4x6inn/uiConfId/49694343/)

vCenter Server Appliance へのパッチ適用および vCenter Server Appliance のパッチの自動チェックの有効化については、『vSphere のアップグレード』ドキュメントを参照してください。

vCenter Server Appliance のバックアップおよびリストアの詳細については、『vCenter Server のインストールとセットアップ』を参照してください。

この章には、次のトピックが含まれています。

- vCenter Server Appliance 管理インターフェイスへのログイン
- vCenter Server Appliance の健全性ステータスの確認
- vCenter Server Appliance の再起動またはシャットダウン
- サポート バンドルの作成
- CPU とメモリ使用率の監視
- ディスク使用率の監視
- ネットワーク使用の監視
- データベース使用の監視
- SSH と Bash シェル アクセスの有効化または無効化
- DNS、IP アドレス、およびプロキシの設定
- プライマリ ネットワーク ID の再設定
- vCenter Server Appliance のファイアウォール設定の編集
- システムのタイムゾーンおよび時刻同期の設定の構成
- サービスの起動、停止、および再起動
- 更新設定
- root ユーザーのパスワードおよびパスワード有効期限の設定の変更

- vCenter Server Appliance のログ ファイルを リモート Syslog サーバへ転送
- バックアップの設定およびスケジューリング

vCenter Server Appliance 管理インターフェイスへのログイン

vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインして、vCenter Server Appliance の設定を行います。

注： ログイン セッションは、vCenter Server Appliance 管理インターフェイスを 10 分間アイドル状態で放置すると、期限切れになります。

前提条件

- vCenter Server Appliance が正常にデプロイされ、実行されていることを確認します。
- Internet Explorer を使用する場合は、セキュリティ設定で TLS 1.0、TLS 1.1、TLS 1.2 が有効になっていることを確認します。

手順

- 1 Web ブラウザで、vCenter Server Appliance 管理インターフェイス (<https://appliance-IP-address-or-FQDN:5480>) に移動します。
- 2 root としてログインします。

デフォルトの root パスワードは、vCenter Server Appliance のデプロイ時に設定したパスワードです。

vCenter Server Appliance の健全性ステータスの確認

vCenter Server Appliance 管理インターフェイスを使用し、vCenter Server Appliance の全体的な健全性ステータスと健全性メッセージを確認できます。

vCenter Server Appliance の全体的な健全性ステータスは、CPU、メモリ、データベース、およびストレージなどのハードウェア コンポーネントのステータスに基づいています。また、使用可能なパッチの前のチェックを使用してソフトウェア パッケージが最新かどうかを示す、更新コンポーネントにも基づいています。

重要： 使用可能なパッチの定期的なチェックを実行しないと、更新コンポーネントの健全性ステータスが旧バージョンになることがあります。vCenter Server Appliance パッチのチェック方法と vCenter Server Appliance パッチの自動チェックを有効にする方法の詳細については、vSphere のアップグレードを参照してください。

個々のステータスを表示する方法の詳細については、[vCenter Server Appliance の健全性ステータスおよび統計の監視](#)を参照してください。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、[サマリ] をクリックします。

- 2 [健全性ステータス] ペインで、[全体的な健全性] バッジを確認します。

表 2-1. 健全性ステータス

バッジアイコン	説明
	良好。アプライアンス内のすべてのコンポーネントが正常です。
	警告。アプライアンス内の 1 つ以上のコンポーネントがすぐに過負荷状態になる可能性があります。 詳細は [健全性メッセージ] ペインで確認できます。
	アラートアプライアンス内の 1 つ以上のコンポーネントの機能が低下する可能性があります。非セキュリティ バッチを使用できる可能性があります。 詳細は [健全性メッセージ] ペインで確認できます。
	最重要。アプライアンス内の 1 つ以上のコンポーネントが使用不能状態になっている可能性があり、アプライアンスはすぐに応答不能になる可能性があります。セキュリティ バッチを使用できる可能性があります。 詳細は [健全性メッセージ] ペインで確認できます。
	不明。データが使用できません

vCenter Server Appliance の再起動またはシャットダウン

vCenter Server Appliance 管理インターフェイスを使用して、実行中の仮想マシンを再起動またはパワーオフできます。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、[サマリ] をクリックします。
- 2 トップメニュー ペインから、[アクション] ドロップダウン メニューをクリックします。
- 3 仮想マシンを再起動またはパワーオフするには、[再起動] または [シャットダウン] をクリックします。
- 4 確認ダイアログ ボックスで [はい] をクリックして操作を確認します。

サポート バンドルの作成

アプライアンスで実行中の vCenter Server インスタンスのログ ファイルが含まれているサポート バンドルを作成できます。ログをマシン上でローカルに分析することも、バンドルを VMware サポートに送付することもできます。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、[サマリ] をクリックします。
- 2 トップ メニュー ペインから、[アクション] ドロップダウン メニューをクリックします。
- 3 [サポート バンドルの作成] をクリックし、ローカル マシン上にバンドルを保存します。

結果

サポート バンドルは、.tgz ファイルとしてローカル マシンにダウンロードされます。

CPU とメモリ使用率の監視

vCenter Server Appliance 管理インターフェイスを使用して、vCenter Server Appliance の全体的な CPU およびメモリ使用率を監視できます。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、[監視] をクリックします。
- 2 [監視] ページで、[CPU およびメモリ] タブをクリックします。
- 3 [日付範囲] ドロップダウン メニューから、CPU 使用率のグラフとメモリ使用率のグラフを生成する期間を選択します。
- 4 特定の日時の CPU 使用率とメモリ使用率を確認する CPU グラフを指定します。

ディスク使用率の監視

vCenter Server Appliance 管理インターフェイスを使用して、vCenter Server Appliance のディスク使用率を監視することができます。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、[監視] をクリックします。
- 2 [監視] ページで、[ディスク] タブをクリックします。

結果

[ディスクの監視] ペインにディスクが表示されます。この情報は、名前、パーティション、または使用率で並べ替えることができます。

ネットワーク使用の監視

vCenter Server Appliance 管理インターフェイスを使用して、前日、先週、先月、または前四半期の vCenter Server Appliance のネットワーク使用率を監視できます。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、[監視] をクリックします。
- 2 [監視] ページで、[ネットワーク] タブをクリックします。
- 3 [日付範囲] ドロップダウン メニューから、ネットワーク使用率のグラフを生成する期間を選択します。
- 4 以下の表から、グラフ グリッドはバケットを選択するか、監視するバイト レートを送信します。
オプションは、ネットワーク設定によって異なります。
ネットワーク使用率グラフが更新され、選択した項目の使用率が表示されます。
- 5 特定の日時のネットワーク使用率のデータを確認するネットワーク使用率のグラフを指定します。

データベース使用の監視

vCenter Server Appliance 管理インターフェイスを使用して、vCenter Server Appliance の組み込みデータベースの使用状況をデータの種類ごとに監視できます。また、容量使用率のグラフを監視して、最も数の多いデータの種類をフィルタリングすることもできます。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、[監視] をクリックします。
- 2 [監視] ページで [データベース] タブをクリックして、vCenter Server Appliance データベースの使用済み容量と空き容量を監視します。
- 3 [日付範囲] ドロップダウン メニューから、容量使用率のグラフを生成する期間を選択します。
- 4 グラフの下部で特定のデータベース コンポーネントのタイトルをクリックすると、そのコンポーネントがグラフから除外または除外されます。

オプション	説明
SEAT 容量使用量のトレンド グラフ	アラーム、イベント、タスク、および統計のトレンドラインを選択および表示できます。
容量使用量の全体的なトレンド グラフ	SEAT、DB ログ、およびコアのトレンドラインを選択および表示できます。

- 5 特定の日時のデータベース使用率の値を確認する容量使用率のグラフを指定します。

SSH と Bash シェル アクセスの有効化または無効化

vCenter Server Appliance 管理インターフェイスを使用して、アプライアンスのアクセス設定を編集できます。アプライアンスへの SSH 管理者ログインを有効または無効にできます。一定期間、vCenter Server Appliance Bash シェルへのアクセスを有効にすることもできます。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、[アクセス] をクリックしてから [編集] をクリックします。
- 2 vCenter Server Appliance のアクセス設定の編集

オプション	説明
SSH ログインの有効化	vCenter Server Appliance への SSH アクセスを有効にします。
DCUI の有効化	vCenter Server Appliance へのダイレクト コンソール ユーザー インターフェイス アクセスを有効にします。
コンソール CLI の有効化	vCenter Server Appliance へのコンソール CLI アクセスを有効にします。
Bash シェルの有効化	指定した期間 (分)、vCenter Server Appliance への Bash シェル アクセスが有効になります。

- 3 [OK] をクリックし、設定を保存します。

DNS、IP アドレス、およびプロキシの設定

vCenter Server Appliance に対して、固定 IPv4/IPv6 アドレスの割り当て、DNS 設定の編集、プロキシ設定の定義などを行うことができます。

前提条件

- アプライアンスの IP アドレスを変更する場合は、アプライアンスのシステム名が完全修飾ドメイン名 (FQDN) であることを確認します。システム名は、プライマリ ネットワークの識別子として使用されます。アプライアンスのデプロイ時にシステム名として IP アドレスを設定した場合は、後で PNID を FQDN に変更できます。
- root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、[ネットワーク] をクリックします。
- 2 [ネットワーク設定] ページで、[編集] をクリックします。

3 [ホスト名および DNS] セクションを展開し、DNS 設定を指定します。

オプション	説明
DNS 設定の自動取得	ネットワークから DNS 設定を自動的に取得します。
DNS 設定を手動で入力	DNS アドレス設定を手動で設定できます。このオプションを選択する場合は、次の情報を指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 優先 DNS サーバの IP アドレス。 ■ (オプション) 代替 DNS サーバの IP アドレス。

4 [ネットワーク設定] ページで、[編集] をクリックします。

5 [NIC 0] セクションを展開し、ゲートウェイ設定を指定します。

6 IPv4 アドレス設定を編集します。

オプション	説明
IPv4 設定を無効にする	IPv4 アドレスを無効にします。アプライアンスでは、IPv6 アドレスのみが使用されます。
IPv4 設定を自動的に取得します	ネットワークからアプライアンスの IPv4 アドレスを自動的に取得します。
IPv4 設定を手動で入力	手動で設定した IPv4 アドレスを使用します。IP アドレス、サブネット プリフィックス長、およびデフォルト ゲートウェイを入力する必要があります。

7 IPv6 アドレス設定を編集します。

オプション	説明
[DHCP を使用して IPv6 設定を自動的に取得]	DHCP を使用することで、ネットワークからアプライアンスに IPv6 アドレスを自動的に割り当てます。
[ルーターのアドバタイズを使用して IPv6 設定を自動的に取得]	ルーターのアドバタイズを使用することにより、ネットワークから自動的にアプライアンスに IPv6 アドレスを割り当てます。
[固定 IPv6 アドレスを使用]	手動で設定した固定 IPv6 アドレスを使用します。 <ol style="list-style-type: none"> 1 このチェックボックスをクリックします。 2 IPv6 アドレスとサブネット プリフィックス長を入力します。 3 [追加] をクリックして、追加の IPv6 アドレスを入力します。 4 [[保存]] をクリックします。

アプライアンスは、DHCP およびルーターのアドバタイズの両方を使用して IPv6 設定を自動的に取得するように設定できます。同時に、固定 IPv6 アドレスを割り当てることも可能です。

8 プロキシ サーバを設定するには、[プロキシ設定] セクションで [編集] をクリックします。

9 有効にするプロキシ設定を選択します。

オプション	説明
HTTPS	HTTPS プロキシ設定を有効にします。
FTP	FTP プロキシ設定を有効にします。
HTTP	HTTP プロキシ設定を有効にします。

10 サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。

- 11 ポートを入力します。
- 12 ユーザー名を入力します (オプション)。
- 13 パスワードを入力します (オプション)。
- 14 [[保存]] をクリックします。

プライマリ ネットワーク ID の再設定

vCenter Server Appliance の管理ネットワークの FQDN、IP アドレス、または PNID を変更できます。

前提条件

システム名は、プライマリ ネットワークの識別子として使用されます。アプライアンスのデプロイ時にシステム名として IP アドレスを設定した場合は、後で PNID を FQDN に変更できます。

vCenter High Availability (HA) が有効になっている場合は、PNID を再設定する前に vCenter HA の設定を無効にする必要があります。

手順

- 1 管理者 SSO 認証情報を使用して、vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。
- 2 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスの [ネットワーク] ページに移動し、[編集] をクリックします。
- 3 変更する NIC を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 [設定の編集] ペインでホスト名を変更し、新しい IP アドレスを指定します。[次へ] をクリックします。
- 5 [SSO 認証情報] ペインで、管理者 SSO 認証情報を指定します。 `administrator@<domain_name>` 認証情報を使用する必要があります。
- 6 [設定の確認] ペインで新しい設定を確認し、バックアップの確認ボックスをオンにします。[終了] をクリックします。

タスクバーにネットワークの更新のステータスが表示されます。更新をキャンセルするには、[ネットワークの更新をキャンセル] をクリックします。ネットワークの再構成が完了すると、ユーザー インターフェイスは新しい IP アドレスにリダイレクトされます。
- 7 再構成プロセスを終了してサービスを再起動するには、管理者 SSO 認証情報を使用してログインします。
- 8 [ネットワーク] ページで新しいホスト名と IP アドレスを確認します。

次のステップ

- デプロイされたすべてのプラグインを再登録します。
- すべてのカスタム証明書を再生成します。
- vCenter HA が有効になっていた場合は、vCenter HA を再設定します。
- アクティブ ドメインが有効になっていた場合は、Active Domain を再設定します。

- ハイブリッドリンクモードが有効になっていた場合は、Cloud vCenter Server を使用してハイブリッドリンクを再設定します。

vCenter Server Appliance のファイアウォール設定の編集

vCenter Server Appliance をデプロイした後は、アプライアンス管理インターフェイスを使用してファイアウォール設定を編集し、ファイアウォールルールを作成できます。

ファイアウォールルールを設定すると、vCenter Server Appliance と特定のサーバ、ホスト、または仮想マシン間のトラフィックを承諾またはブロックできます。特定のポートをブロックすることはできず、すべてのトラフィックがブロックされます。

前提条件

vCenter Server Appliance で vCenter Server インスタンスにログインしているユーザーが、vCenter Single Sign-On の SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、[ファイアウォール] をクリックします。
- 2 ファイアウォール設定を編集します。

コマンド	操作
追加	<ol style="list-style-type: none"> ファイアウォールルールを作成するには、[追加] をクリックします。 仮想マシンのネットワーク インターフェイスを選択します。 このルールを適用するネットワークの IP アドレスを入力します。 この IP アドレスは、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスにできます。 サブネット プリフィックス長を入力します。 [アクション] ドロップダウン メニューから、vCenter Server Appliance と入力したネットワークの間の接続について、[承諾]、[無視]、[拒否]、または [戻る] を選択します。 [保存] をクリックします。
編集	<ol style="list-style-type: none"> ルールを選択し、[編集] をクリックします。 ルールの設定を編集します。 [保存] をクリックします。
削除	<ol style="list-style-type: none"> ルールを選択し、[削除] をクリックします。 プロンプトで、もう一度 [削除] をクリックします。
順序の変更	<ol style="list-style-type: none"> ルールを選択し、[順序の変更] をクリックします。 [順序の変更] ペインで、移動するルールを選択します。 [上へ移動] または [下へ移動] をクリックします。 [保存] をクリックします。

システムのタイムゾーンおよび時刻同期の設定の構成

vCenter Server Appliance のデプロイ後、vCenter Server Appliance の管理インターフェイスからシステムのタイムゾーンと時刻同期の設定を変更できます。

vCenter Server Appliance をデプロイする際、アプライアンスが実行されている ESXi ホストの時刻設定を使用するか、NTP サーバに基づいて時刻同期を構成します。vSphere ネットワークの時刻設定が変更された場合、アプライアンスのタイムゾーンおよび時刻同期の設定を編集できます。

重要： vCenter Server Appliance が外部の Platform Services Controller を使用している場合、vCenter Server Appliance と Platform Services Controller の両方が同じ時刻同期ソースを使用するように構成する必要があります。そうしないと、vCenter Single Sign-On による認証が失敗することがあります。

前提条件

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、[時刻] をクリックします。
- 2 システムのタイムゾーン設定を構成します。
 - a [タイムゾーン] ペインで、[編集] をクリックします。
 - b [タイムゾーン] ドロップダウンメニューで場所またはタイムゾーンを選択し、[保存] をクリックします。
- 3 時刻同期の設定を構成します。
 - a [時刻同期] ペインで、[編集] をクリックします。
 - b [モード] ドロップダウンメニューで、時刻同期方法を構成します。

オプション	説明
無効	時刻同期なし。システムのタイムゾーン設定を使用します。
ホスト	VMware Tools の時刻同期を有効にします。VMware Tools を使用して、アプライアンスの時刻を ESXi ホストの時刻と同期します。
NTP	NTP 同期を有効にします。1 つ以上の NTP サーバの IP アドレスまたは FQDN を入力する必要があります。

- c [[保存]] をクリックします。

サービスの起動、停止、および再起動

vCenter Server Appliance 管理インターフェイスを使用して、vCenter Server コンポーネントのステータスを表示できるほか、サービスを起動、停止、再起動が可能です。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、[サービス] をクリックします。
[サービス] ページには、インストールされているサービスのテーブルが表示され、名前、起動タイプ、健全性、および状態で並べ替えできます。

- 2 サービスを選択し、[起動]、[停止]、または [再起動] をクリックして、[OK] をクリックします。

複数のサービスを再起動すると、機能が一時的に使用できなくなる場合があります。

更新設定

vCenter Server Appliance の管理インターフェイスを使用し、更新を設定して新しいアップデートがないかチェックできます。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、[更新] をクリックします。
- 2 更新を設定するには、[設定] をクリックします。
 - a アップデートの有無を自動的にチェックするには、チェックボックスを選択します。
 - b デフォルトまたはカスタムのリポジトリを使用するよう選択します。
 - c カスタム リポジトリを選択した場合は、リポジトリ URL、ユーザー名（オプション）、およびパスワード（オプション）を入力します。[保存] をクリックします。

URL は、HTTPS および FTPS プロトコルがサポートされます。
- 3 手動でアップデートの有無をチェックするには、[更新の確認] ドロップダウン メニューをクリックします。
 - a [CD-ROM] または [CD-ROM + URL] のアップデートの有無をチェックするよう選択します。

結果

[利用可能なアップデート] 表には利用可能なアップデートが表示され、バージョン、タイプ、リリース日、再起動の要件、および重要度で並べ替えることができます。

root ユーザーのパスワードおよびパスワード有効期限の設定の変更

vCenter Server Appliance をデプロイする際に設定する root ユーザーの初期パスワードは、デフォルトでは 90 日後に期限が切れます。vCenter Server Appliance の管理インターフェイスから root パスワードおよびパスワードの有効期限の設定を変更できます。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance 管理インターフェイスで、[管理] をクリックします。
- 2 [パスワード] セクションで [変更] をクリックします。
- 3 現在のパスワードと新しいパスワードを入力し、[保存] をクリックします。

4 root ユーザーのパスワード有効期限設定を構成します。

- a [パスワード有効期限の設定] セクションで [編集] をクリックし、パスワードの有効期限ポリシーを選択します。

オプション	説明
はい	<p>root ユーザーのパスワードは、一定の日数後に期限切れになります。次の情報を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [root パスワードの有効性 (日数)] <p>パスワードが期限切れになるまでの日数。</p> ■ [期限切れ警告の E メール] <p>有効期限の前に vCenter Server Appliance によって警告メッセージが送信されるメールアドレス。</p>
なし	root ユーザーのパスワードは無期限です。

- b [パスワード有効期限の設定] ペインで [保存] をクリックし、新しいパスワード有効期限の設定を適用します。

[パスワードの有効期限の設定] セクションには、新しい期限日が表示されます。

vCenter Server Appliance のログ ファイルを リモート Syslog サーバへ転送

vCenter Server Appliance のログ ファイルを リモート Syslog サーバに転送して、ログの分析を実行できます。

注： ESXi は、ログ ファイルをローカル ディスクに保存するのではなく、vCenter Server へ送信するように設定できます。ログの収集でサポートされるホストの最大数は 30 台に設定することを推奨します。ESXi のログ転送を設定する方法については、<http://kb.vmware.com/s/article/2003322> を参照してください。この機能は、ステートレス ESXi ホストでの小規模な環境を対象としています。それ例外の場合はすべて、専用のログ サーバを使用します。ESXi ログ ファイルの受信に vCenter Server を使用すると、vCenter Server のパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- 1 vCenter Server Appliance の管理インターフェイスで [Syslog] を選択します。
- 2 リモート Syslog ホストを構成していない場合は、[転送の構成] セクションで、[構成] をクリックします。すでにホストを構成している場合は、[編集] をクリックします。
- 3 [転送の構成を作成] ペインで、ターゲット ホストのサーバ アドレスを入力します。サポートされているターゲット ホストの最大数は 3 です。

- 4 [プロトコル] ドロップダウン メニューから、使用するプロトコルを選択します。

メニュー項目	説明
TLS	トランスポート レイヤー セキュリティ
TCP	Transmission Control Protocol
RELP	Reliable Event Logging Protocol
UDP	User Datagram Protocol

- 5 [ポート] テキスト ボックスに、ターゲット ホストとの通信に使用するポート番号を入力します。
- 6 [転送の構成を作成] ペインで [追加] をクリックし、別のリモート Syslog サーバを入力します。
- 7 [保存] をクリックします。
- 8 リモート Syslog サーバがメッセージを受信していることを確認します。
- 9 [転送の構成] セクションで、[テスト メッセージの送信] をクリックします。
- 10 リモート Syslog サーバで、テスト メッセージを受信したことを確認します。
- [転送の構成] セクションに新しい構成が表示されます。

バックアップの設定およびスケジューリング

vCenter Server Appliance の管理インターフェイスでは、バックアップの保存場所を設定したり、バックアップ スケジュールを作成したり、バックアップ アクティビティを監視したりすることができます。

前提条件

root として vCenter Server Appliance 管理インターフェイスにログインします。

手順

- vCenter Server Appliance の管理インターフェイスで、[バックアップ] をクリックします。
- バックアップ スケジュールを作成するには、[設定] をクリックします。既存のバックアップ スケジュールを編集するには、[編集] をクリックします。
 - [バックアップ スケジュール] ペインで、バックアップの保存場所を入力します。形式は **protocol://server-address<:port-number>/folder/subfolder** となります。
バックアップでサポートされるプロトコルは FTPS、HTTPS、SCP、FTP および HTTP です。
 - バックアップ サーバのユーザー名とパスワードを入力します。
 - バックアップを実行する時間と頻度を入力します。
 - (オプション) バックアップの暗号化パスワードを入力します。
 - 保持するバックアップ数を指定します。
 - バックアップを保存するデータの種類を指定します。
- 手動バックアップを開始するには、[今すぐバックアップ] をクリックします。

結果

スケジュールが設定されたバックアップと手動バックアップに関する情報は、[アクティビティ] の表に表示されま
す。

vSphere Client と vSphere Web Client を使用した vCenter Server Appliance の設定

3

vCenter Server Appliance をデプロイした後は、アプライアンスを Active Directory ドメインに参加させる、vCenter Server Appliance で実行されているサービスを管理する、ネットワークやその他の設定などの構成処理を vSphere Client と vSphere Web Client で行うことができます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- Active Directory ドメインでの参加と離脱
- SystemConfiguration.BashShellAdministrators グループへのユーザーの追加
- vCenter Server Appliance へのアクセス設定の編集
- vCenter Server Appliance の DNS と IP アドレス設定の編集
- vCenter Server Appliance のファイアウォール設定の編集
- サービスの起動設定の編集
- ノードの再起動
- サービスおよびノードの健全性ステータスの表示
- サービス設定の編集
- サポート バンドルのエクスポート

Active Directory ドメインでの参加と離脱

vCenter Server を Active Directory ドメインに参加させることができます。ユーザーとグループは、この Active Directory ドメインから、ご使用の vCenter Single Sign-On ドメインに接続できます。Active Directory ドメインから離脱することができます。

重要: 読み取り専用ドメイン コントローラ (RODC) を含んだ Active Directory ドメインに vCenter Server を参加させることはサポートされません。vCenter Server を参加させることができるのは、書き込み可能なドメイン コントローラを含んだ Active Directory ドメインだけです。

Active Directory からのユーザーとグループが vCenter Server コンポーネントにアクセスできるように権限を設定する場合は、Active Directory ドメインに vCenter Server インスタンスに参加させる必要があります。

たとえば、vCenter Server インスタンスに、Active Directory ユーザーが vSphere Client を使用してログインできるようにするには、vCenter Server インスタンスを Active Directory ドメインに参加させたうえで、そのユーザーに管理者ロールを割り当てる必要があります。

前提条件

- vCenter Server Appliance で vCenter Server インスタンスにログインしているユーザーが、vCenter Single Sign-On の SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。
- アプライアンスのシステム名が FQDN であることを確認します。アプライアンスのデプロイ時に、システム名として IP アドレスを設定した場合、vCenter Server を Active Directory ドメインに参加させることはできません。

手順

- 1 vSphere Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに administrator@your_domain_name としてログインします。
- 2 vSphere Client のナビゲーション ペインで、[管理] - [シングル サインオン] - [構成] の順にクリックします。
- 3 [Active Directory ドメイン] タブを選択し、[Active Directory に参加] をクリックします。
- 4 Active Directory の詳細情報を入力します。

オプション	説明
ドメイン	Active Directory ドメイン名 (mydomain.com など)。このテキスト ボックスには IP アドレスを入力しないでください。
組織単位 (オプション)	組織単位 (OU) の完全な LDAP FQDN。たとえば、OU=Engineering,DC=mydomain,DC=com など。 重要： LDAP を十分に理解している場合のみ、このテキスト ボックスを使用してください。
ユーザー名	ユーザー プリンシパル名 (UPN) 形式のユーザー名 (jchin@mydomain.com など)。 重要： DOMAIN\UserName などのダウンレベル ログイン名形式はサポートされていません。
パスワード	ユーザーのパスワード。

- 5 [参加] をクリックし、vCenter Server を Active Directory ドメインに参加させます。
メッセージが表示されることなく処理が成功し、[Active Directory に参加] オプションが [Active Directory から離脱] に変わります。
- 6 (オプション) Active Directory ドメインから離脱するには、[Active Directory から離脱] をクリックします。
- 7 vCenter Server を再起動して、変更を適用します。vCenter Server の再起動の詳細については、[vCenter Server Appliance の再起動またはシャットダウン](#)を参照してください。

重要： vCenter Server を再起動しないと、vSphere Client を使用しているときに問題が発生する場合があります。

- 8 [ID ソース] タブを選択して、[追加] をクリックします。
- [ID ソースの追加] ページで、ID ソースのタイプとして [Active Directory (統合 Windows 認証)] を選択します。
 - 参加している Active Directory ドメインの ID ソースの設定を入力し、[追加] をクリックします。

表 3-1. ID ソース設定の追加

テキスト ボックス	説明
ドメイン名	ドメインの FQDN。このテキスト ボックスには IP アドレスを入力しないでください。
マシン アカウントを使用	ローカル マシン アカウントを SPN として使用する場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択する場合は、ドメイン名のみを指定します。マシン名を変更する場合は、このオプションを選択しないでください。
サービス プリンシパル名 (SPN) を使用	ローカル マシン名を変更する場合は、このオプションを選択します。SPN、ID ソースで認証できるユーザー、およびそのユーザーのパスワードを指定する必要があります。
サービス プリンシパル名	Kerberos による Active Directory サービスの特定を支援する SNP。STS/example.com のように、名前にドメインを含めます。 使用するユーザーを追加するには、 <code>setspn -S</code> を実行する必要があります。setspn の情報については、Microsoft のドキュメントを参照してください。 SPN はドメイン全体で一意である必要があります。setspn -S を実行すると、重複が作成されていないことをチェックできます。
ユーザー名	この ID ソースで認証できるユーザーの名前。 jchin@mydomain.com のように、メール アドレス形式を使用します。ユーザー プリンシパル名は、Active Directory サービス インターフェイス エディタ (ADSI エディタ) で検証できません。
Password	この ID ソース ([ユーザー プリンシパル名] で指定したユーザー) での認証に使用されるユーザーのパスワード。 jdoe@example.com のように、ドメイン名を含めます。

結果

[ID ソース] タブに、参加した Active Directory ドメインが表示されます。

次のステップ

参加した Active Directory ドメインのユーザーおよびグループが vCenter Server コンポーネントにアクセスできるように権限を設定することができます。権限の管理の詳細については、『vSphere のセキュリティ』ドキュメントを参照してください。

SystemConfiguration.BashShellAdministrators グループへのユーザーの追加

vSphere Client を使用して vCenter Server Appliance の Bash シェルへのアクセスを有効にする場合、ログインで使用するユーザーは、SystemConfiguration.BashShellAdministrators グループのメンバーである必要があります。デフォルトでこのグループは空白であるため、手動でグループにユーザーを追加する必要があります。

前提条件

vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザーが、vCenter Single Sign-On ドメインの SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに administrator@your_domain_name としてログインします。
アドレスのタイプは、http://appliance-IP-address-or-FQDN/ui です。
- 2 vSphere Client のナビゲーション ペインで、[管理] - [シングル サインオン] - [ユーザーおよびグループ] の順にクリックします。
- 3 [グループ] タブで [SystemConfiguration.BashShellAdministrators] グループをクリックし、[グループの編集] を選択します。
- 4 [グループの編集] ペインでドメインを選択し、追加するユーザーを検索します。
- 5 リストで該当のユーザーをダブルクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。

vCenter Server Appliance へのアクセス設定の編集

vSphere Web Client を使用して、アプライアンスへのローカル アクセスおよびリモート アクセスを有効にできません。

前提条件

vCenter Server Appliance で vCenter Server インスタンスにログインしているユーザーが、vCenter Single Sign-On の SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

vCenter Server Appliance Bash シェルへのアクセスを有効にするには、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザー名が、SystemConfiguration.BashShellAdministrators グループのメンバーであることを確認します。
[SystemConfiguration.BashShellAdministrators グループへのユーザーの追加](#)を参照してください。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに administrator@your_domain_name としてログインします。
アドレスのタイプは https://appliance-IP-address-or-FQDN/vsphere-client です。

- 2 vSphere Web Client のメイン ページで、[ホーム] - [管理] - [システム構成] の順にクリックします。
- 3 [システム構成] で、[ノード] をクリックします。
- 4 [ノード] で、ノードを選択し、[管理] タブをクリックします。
- 5 [管理] タブで、[設定] - [共通] - [アクセス] の順に選択し、[編集] をクリックします。
- 6 使用可能ないずれかのオプションを選択して、vCenter Server Appliance にアクセスします。

オプション	説明
ローカル ログインの有効化	vCenter Server Appliance コンソールへのローカル ログインを有効にします。
SSH ログインの有効化	vCenter Server Appliance への SSH アクセスを有効にします。
Bash シェル アクセスの有効化	指定した期間 (分)、vCenter Server Appliance への Bash シェル アクセスが有効になります。 このオプションは、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザー名が、SystemConfiguration.BashShellAdministrators グループのメンバーである場合に限り使用できます。

- 7 [OK] をクリックし、設定を保存します。

vCenter Server Appliance の DNS と IP アドレス設定の編集

vCenter Server Appliance のデプロイ後に、DNS 設定を編集して、使用する DNS サーバを選択できます。vCenter Server Appliance の IP アドレス設定を編集できます。IPv4 と IPv6 のどちらを使用するか、およびアプライアンスによる IP アドレスの取得方法についても選択できます。

前提条件

- アプライアンスの IP アドレスを変更する場合は、アプライアンスのシステム名が完全修飾ドメイン名 (FQDN) であることを確認します。アプライアンスのデプロイ中にシステム名として IP アドレスを設定すると、デプロイ後に IP アドレスを変更できなくなります。システム名は、常にプライマリ ネットワークの識別子として使用されます。
- vCenter Server Appliance で vCenter Server インスタンスにログインしているユーザーが、vCenter Single Sign-On の SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

注： vCenter Server 6.7 では、デュアル IP スタック (IPv4 と IPv6) の使用はサポートされていません。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに administrator@your_domain_name としてログインします。
アドレスのタイプは、http://appliance-IP-address-or-FQDN/vsphere-client です。
- 2 vSphere Web Client のメイン ページで、[ホーム] - [管理] - [システム構成] の順にクリックします。
- 3 [システム構成] で、[ノード] をクリックします。
- 4 [ノード] で、ノードを選択し、[管理] タブをクリックします。

- 5 [ネットワーク] を選択し、[編集] をクリックします。
- 6 [DNS] を展開して、設定を編集します。

オプション	説明
DNS サーバアドレスを自動的に取得	ネットワークから DNS 設定を自動的に取得します。
設定を手動で入力してください	DNS アドレス設定は手動で指定できます。このオプションを選択する場合は、次を指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ vCenter Server Appliance マシンの [ホスト名]。 ■ [優先 DNS サーバ] の IP アドレス。 ■ [代替 DNS サーバ] の IP アドレス。 ■ [ドメインの検索] (アドレスを検索するときにドメインを制限する場合)。入力したドメインは、入力された順番で検索されます。有効な名前が見つかったら検索が中止されます。

- 7 ネットワーク インターフェイス名を展開して、IP アドレス設定を編集します。
- 8 IPv4 アドレス設定を編集します。

オプション	説明
IPv4 設定がありません	IPv4 アドレスを無効にします。アプライアンスでは、IPv6 アドレスのみが使用されます。
IPv4 設定を自動的に取得します	ネットワークからアプライアンスの IPv4 アドレスを自動的に取得します。
次の IPv4 設定を使用	手動で設定した IPv4 アドレスを使用します。IP アドレス、サブネット プリフィックス長、およびデフォルト ゲートウェイを入力する必要があります。

- 9 IPv6 アドレス設定を編集します。

オプション	説明
[DHCP を使用して IPv6 設定を自動的に取得]	DHCP を使用することで、ネットワークからアプライアンスに IPv6 アドレスを自動的に割り当てます。
[ルーターのアドバタイズを使用して IPv6 設定を自動的に取得]	ルーターのアドバタイズを使用することにより、ネットワークから自動的にアプライアンスに IPv6 アドレスを割り当てます。
[固定 IPv6 アドレスを使用]	手動で設定した固定 IPv6 アドレスを使用します。 <ol style="list-style-type: none"> 1 このチェックボックスをクリックします。 2 IPv6 アドレスとサブネット プリフィックス長を入力します。 3 [追加] をクリックして、追加の IPv6 アドレスを入力します。 4 [[保存]] をクリックします。

アプライアンスは、DHCP およびルーターのアドバタイズの両方を使用して IPv6 設定を自動的に取得するように設定できます。同時に、固定 IPv6 アドレスを割り当てることも可能です。

- 10 (オプション) 動的 IPv6 アドレスを削除します。
 - a [アドレスを削除] をクリックします。
 - b 削除する IP アドレスを選択して、[削除] アイコン (✖) をクリックします。
 - c [OK] をクリックします。
- 11 [OK] をクリックして、編集内容を保存します。

次のステップ

dnsmasq サービスを再起動して古いキャッシュ データをフラッシュします。

- 1 SSH を使用して vCenter Server Appliance に接続します。
- 2 `shell` コマンドを入力して、BASH シェルを変更します。
- 3 `service dnsmasq restart` を実行して、dnsmasq サービスを再起動します。

vCenter Server Appliance のファイアウォール設定の編集

vCenter Server Appliance をデプロイした後は、vSphere Web Client を使用してファイアウォール設定を編集し、ファイアウォール ルールを作成できます。

ファイアウォール ルールを設定すると、vCenter Server Appliance と特定のサーバ、ホスト、または仮想マシン間のトラフィックを許可またはブロックできます。特定のポートをブロックすることはできず、すべてのトラフィックがブロックされます。

前提条件

vCenter Server Appliance で vCenter Server インスタンスにログインしているユーザーが、vCenter Single Sign-On の SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに `administrator@your_domain_name` としてログインします。
アドレスのタイプは、`http://appliance-IP-address-or-FQDN/vsphere-client` です。
- 2 vSphere Web Client のメイン ページで、[ホーム] - [管理] - [システム構成] の順にクリックします。
- 3 [システム構成] で、[ノード] をクリックします。
- 4 [ノード] で、ノードを選択し、[管理] タブをクリックします。
- 5 [ファイアウォール] を選択し、[編集] をクリックします。

6 ファイアウォール設定を編集します。

オプション	操作
ファイアウォール ルールの追加	<ul style="list-style-type: none"> a [追加] アイコン (+) をクリックし、新しいファイアウォール ルールを作成します。 b 仮想マシンのネットワーク インターフェイスを選択します。 c このルールを適用するネットワークの IP アドレスを入力します。 この IP アドレスは、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスにできます。 d サブネット プレフィックスの長さを入力します。 e [アクション] ドロップダウン メニューから、vCenter Server Appliance と指定したネットワークの間の接続をブロックするか許可するかを選択します。 f [OK] をクリックします。
ファイアウォール ルールの編集	<ul style="list-style-type: none"> a [編集] アイコン (✎) をクリックしてファイアウォール ルールを編集します。 b ルールの設定を編集します。 c [OK] をクリックします。
ルールの優先順位付け	<ul style="list-style-type: none"> a 下矢印または上矢印をクリックして、リスト内のルールを下または上に移動します。
ファイアウォール ルールの削除	<ul style="list-style-type: none"> a リストからルールを選択して、[削除] アイコン (✖) をクリックします。 b [OK] をクリックします。

7 [OK] をクリックして、編集内容を保存します。

サービスの起動設定の編集

Message Bus Configuration、ESXi Dump Collector、および Auto Deploy サービスは、vCenter Server Appliance の任意のサービスで、デフォルトでは実行されません。vCenter Server Appliance のこれらのサービスの起動設定は編集することができます。

前提条件

vCenter Server Appliance で vCenter Server インスタンスにログインしているユーザーが、vCenter Single Sign-On の SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに administrator@your_domain_name としてログインします。

アドレスのタイプは、http://appliance-IP-address-or-FQDN/vsphere-client です。

- 2 vSphere Web Client のメイン ページで、[ホーム] - [管理] - [システム構成] の順にクリックします。

- 3 [システム構成] で、[ノード] をクリックし、リストからノードを選択します。

- 4 [関連オブジェクト] タブをクリックします。

選択したノードで実行されているサービスのリストが表示されます。

- 5 [Auto Deploy]、[ESXi Dump Collector]、または [Message Bus Configuration] などのサービスを右クリックし、[起動タイプの編集] を選択します。

6 サービスの起動方法を選択します。

オプション	説明
自動	オペレーティング システムの起動時にサービスが自動的に起動します。
手動	オペレーティング システムの起動後に、サービスを手動で開始します。
無効	サービスは無効になっています。

7 [OK] をクリックします。

注： または、次の CLI コマンドを使用して、サービスの起動タイプを編集できます。/usr/lib/vmware-vmon/vmon-cli --update <service-name> --starttype <AUTOMATIC|MANUAL|DISABLE>

例：

```
/usr/lib/vmware-vmon/vmon-cli --update certificatemanagement --starttype AUTOMATIC
```

ノードの再起動

vSphere Client で、vCenter Server Appliance で実行されているサービスを開始、停止、または再起動できます。

前提条件

vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザーが、vCenter Single Sign-On ドメインの SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに administrator@your_domain_name としてログインします。
- 2 vSphere Client のメイン ページで、[管理] - [デプロイ] - [システム構成] の順にクリックします。
- 3 [システム構成] で、リストからノードを選択します。
- 4 [ノードの再起動] をクリックします。

サービスおよびノードの健全性ステータスの表示

vSphere Client で、vCenter Server サービスおよびノードの健全性ステータスを表示できます。

vCenter Server サービスを実行している vCenter Server インスタンスおよびマシンは、ノードとみなされます。グラフィカルなバッジは、サービスおよびノードの健全性ステータスを表します。

前提条件

vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザーが、vCenter Single Sign-On ドメインの SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに administrator@your_domain_name としてログインします。
アドレスのタイプは、http://appliance-IP-address-or-FQDN/ui です。
- 2 vSphere Client のメイン ページで、[管理] - [デプロイ] - [システム構成] の順にクリックします。
サービスおよびノードの健全性ステータス バッジを表示できます。

表 3-2. 健全性の状態

バッジアイコン	説明
	良好。オブジェクトの健全性は正常です。
	警告。オブジェクトにいくつかの問題が発生しています。
	最重要。オブジェクトが正常に動作していないか、まもなく動作を停止します。
	不明。このオブジェクトで利用可能なデータはありません。

サービス設定の編集

vSphere Web Client には、vCenter Server で実行されている管理可能なすべてのサービスが一覧表示されます。一部のサービスは、設定を編集できます。

vSphere Web Client には、vCenter Server および vCenter Server Appliance で実行されているすべての管理可能なサービスに関する情報が表示されます。各 vCenter Server インスタンスで、デフォルト サービスのリストを使用できます。

注： vSphere 6.5 以降では、すべての vCenter Server サービスと一部の Platform Services Controller サービスが、VMware Service Lifecycle Manager サービスの子プロセスとして実行されます。

前提条件

vCenter Server インスタンスへのログインに使用するユーザーが、vCenter Single Sign-On ドメインの SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Web Client を使用して、vCenter Server インスタンスに、 administrator@your_domain_name としてログインします。
- 2 vSphere Web Client ホーム ページの [管理] で、[システム構成] をクリックします。
- 3 [システム構成] で、[ノード] をクリックし、リストからノードを選択します。

- 4 [関連オブジェクト] タブをクリックします。

選択したノードで実行されているサービスのリストが表示されます。管理可能なすべてのサービスで、設定を編集できるわけではありません。

- 5 リストにあるサービスを右クリックし、[設定] をクリックします。

管理可能なすべてのサービスで、設定を編集できるわけではありません。

- 6 [管理] タブで、[編集] ボタンをクリックします。

- 7 サービス構成のプロパティを編集します。

- 8 [OK] をクリックし、設定を保存します。

- 9 (オプション) [アクション] メニューから [再起動] を選択します。

構成の変更を適用するために再起動が必要な場合にのみ、サービスを再起動します。

サポート バンドルのエクスポート

Platform Services Controller が組み込まれた vCenter Server Appliance をデプロイした場合、vCenter Server Appliance に含まれる特定の製品のログ ファイルまたは Platform Services Controller の特定のサービスのログ ファイルを含むサポート バンドルをエクスポートできます。外部 Platform Services Controller を備えた vCenter Server Appliance をデプロイした場合は、vSphere Client で選択したノードに応じて、特定のサービスまたは特定の製品のサポート バンドルをエクスポートできます。

前提条件

vCenter Server Appliance で vCenter Server インスタンスにログインしているユーザーが、vCenter Single Sign-On の SystemConfiguration.Administrators グループのメンバーであることを確認します。

手順

- 1 vSphere Client を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスに administrator@your_domain_name としてログインします。

アドレスのタイプは、http://appliance-IP-address-or-FQDN/ui です。

- 2 vSphere Client ホーム ページで、[管理] - [デプロイ] - [システム構成] の順にクリックします。
- 3 リストからノードを選択し、[サポート バンドルのエクスポート] をクリックします。
- 4 [サポート バンドルのエクスポート] ウィンドウで、ツリーを展開して、アプライアンスで実行されているサービスを表示し、ログ ファイルをエクスポートしないサービスの選択を解除します。

デフォルトでは、すべてのサービスが選択されています。サポート バンドルをエクスポートして、VMware サポートに送信する場合は、すべてのチェックボックスを選択したままにしておきます。サービスは 2 つのカテゴリに分類されます。1 つは、アプライアンス内の特定の製品のサービスが含まれるクラウド インフラストラクチャ カテゴリで、もう 1 つは、アプライアンスおよび vCenter Server 製品に固有のサービスが含まれる仮想アプライアンス カテゴリです。

- 5 [サポート バンドルのエクスポート] をクリックし、ローカル マシン上にバンドルを保存します。

結果

サポート バンドルがマシンに保存され、参照できるようになりました。

アプライアンス シェルを使用して vCenter Server Appliance を設定する

4

アプライアンスの監視、トラブルシューティング、構成を実行するためのすべての vCenter Server Appliance API コマンドに、アプライアンス シェルを使用してアクセスできます。

すべてのコマンドは、`pi` キーワードを指定して、または指定せずに、アプライアンス シェルで実行できます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- アプライアンス シェルへのアクセス
- アプライアンス シェルからの Bash シェルへのアクセスおよび Bash シェルを有効にする
- コマンドを編集するためのキーボード ショートカット
- アプライアンスのプラグインおよび API コマンドに関するヘルプの表示
- vCenter Server Appliance シェルのプラグイン
- `showlog` プラグインを使用したログ ファイルの参照
- vCenter Server Appliance シェルの API コマンド
- vCenter Server Appliance の SNMP の構成
- vCenter Server Appliance の時刻同期設定の構成
- vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの管理
- vCenter Server Appliance の健全性ステータスおよび統計の監視
- サービスのリソース使用量を監視する `vimtop` プラグインの使用

アプライアンス シェルへのアクセス

アプライアンス シェルに含まれるプラグインにアクセスし、API コマンドの表示と使用を可能にするには、最初にアプライアンス シェルにアクセスします。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスします。
 - アプライアンス コンソールに直接アクセスできる場合は、`Alt+F1` を押します。
 - リモート接続する場合は、SSH などのリモート コンソール接続を使用して、アプライアンスへのセッションを開始します。

2 アプライアンスで認識されるユーザー名とパスワードを入力します。

結果

アプライアンス シェルにログインし、ようこそメッセージが表示されます。

アプライアンス シェルからの Bash シェルへのアクセスおよび Bash シェルを有効にする

スーパー管理者ロールを持つユーザーとしてアプライアンス シェルにログインしている場合、他のユーザーを対象にアプライアンスの Bash シェルへのアクセスを有効にすることができます。root ユーザーは、アプライアンスの Bash シェルにデフォルトでアクセスできます。

root については、アプライアンスの Bash シェルがデフォルトで有効になっています。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、スーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。
スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。
- 2 それ以外のユーザーを対象に Bash シェル アクセスを有効にする場合は、次のコマンドを実行します。

```
shell.set --enabled true
```

- 3 Bash シェルにアクセスするには、shell または pi shell を実行します。

コマンドを編集するためのキーボード ショートカット

さまざまなキーボード ショートカットを使用して、アプライアンスの Bash シェルでコマンドを入力および編集できます。

表 4-1. キーボード ショートカットと機能

キーボードのショートカット	詳細
Tab	現在入力中のコマンドを補完します。コマンド名の一部を入力して Tab キーを押すと、システムによってコマンド名が補完されます。 入力した一連の文字に一致するコマンドを表示するには、1 文字入力するたびに Tab キーを押します。
Enter (コマンドラインで)	入力したコマンドを実行します。
Enter ([More] プロンプトで)	出力の次ページを表示します。
Delete または Backspace	カーソルの左側の文字を削除します。
左矢印または Ctrl+B	カーソルを 1 文字だけ左に移動します。 複数行にまたがるコマンドを入力する場合は、左矢印または Ctrl+B キーを押すことで、コマンドの先頭に戻ることができます。
右矢印または Ctrl+F	カーソルを 1 文字だけ右に移動します。
Esc, B	カーソルを 1 語分だけ前に戻します。

表 4-1. キーボード ショートカットと機能（続き）

キーボードのショートカット	詳細
Esc, F	カーソルを 1 語分だけ先に進めます。
Ctrl+A	カーソルをコマンド ラインの先頭に移動します。
Ctrl+E	カーソルをコマンド ラインの末尾に移動します。
Ctrl+D	カーソルにより選択された文字を削除します。
Ctrl+W	カーソルの次の語を削除します。
Ctrl+K	行のカーソル位置以降を削除します。Ctrl+K を押すと、現在のカーソル位置からコマンド ラインの末尾までの、入力したすべての内容が削除されます。
Ctrl+U または Ctrl+X	行のカーソル位置より前方を削除します。Ctrl+U を押すと、コマンド ラインの先頭からカーソル位置までのすべての内容が削除されます。
Ctrl+T	カーソルの左側の文字とカーソルで選択した文字を交換します。
Ctrl+R または Ctrl+L	システム プロンプトとコマンド ラインを表示します。
Ctrl+V または Esc, Q	次のキーストロークを、編集キーではなくコマンド入力として処理するようシステムに指示するコードを挿入します。
上矢印または Ctrl+P	履歴バッファ内のコマンドを呼び出します。最後に実行したコマンドが最初に呼び出されます。
下矢印または Ctrl+N	上矢印または Ctrl+P を使用してコマンドを呼び出した後、履歴バッファ内の最後に実行したコマンドに戻ります。
Ctrl+Y	削除バッファ内の最後に格納されたエントリを呼び出します。削除バッファには、切り取りまたは削除操作の対象となった直近の 10 項目が格納されています。
Esc, Y	削除バッファ内の次のエントリを呼び出します。削除バッファには、切り取りまたは削除操作の対象となった直近の 10 項目が格納されています。最初に Ctrl+Y を押して最後のエントリを呼び出してから、Esc, Y を最大 9 回連続押下することで、バッファ内の残りのエントリが呼び出します。
Esc, C	カーソルにより選択された文字を大文字に変換します。
Esc, U	カーソルによって選択された単語のすべての文字を、選択範囲の次のスペースまで、大文字に変換しません。
Esc, L	単語の中の大文字を、カーソルによって選択された文字からその単語の末尾まで小文字に変換します。

アプライアンスのプラグインおよび API コマンドに関するヘルプの表示

vCenter Server Appliance プラグインと API コマンドには、アプライアンス シェルからアクセスできます。これらのプラグインとコマンドを使用して、アプライアンスの監視、トラブルシューティング、構成を実行できます。

API コマンド、プラグイン名、API パラメータを入力する場合、Tab キーを使用して自動補完できます。プラグインパラメータでは、オートコンプリートはサポートされていません。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、ログインします。

- 2 プラグインのヘルプを表示するには、`help pi list` または `? pi list` コマンドを実行します。
アプライアンス内のすべてのプラグインが記載されたリストが表示されます。
- 3 API コマンドのヘルプを表示するには、`help api list` または `? api list` コマンドを実行します。
アプライアンス内のすべての API コマンドが記載されたリストが表示されます。
- 4 特定の API コマンドに関するヘルプを取得するには、`help api api_name` コマンドまたは `? api api_name` コマンドを実行します。
たとえば、`com.vmware.appliance.version1.timesync.set` コマンドのヘルプを取得するには、`help api timesync.set` または `? api timesync.set` を実行します。

vCenter Server Appliance シェルのプラグイン

vCenter Server Appliance のプラグインを使用して、さまざまな管理ツールにアクセスできます。プラグインは、CLI 自体にあります。プラグインは、VMware サービスに依存しない、Linux または VMware のスタンドアロンユーティリティです。

表 4-2. vCenter Server Appliance で使用できるプラグイン

プラグイン	説明
<code>com.vmware.clear</code>	ターミナル画面の消去に使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.cmsso-util</code>	PNID やマシン証明書に対する変更の指揮、Component Manager や vCenter Single Sign-On からのノードの登録解除、Platform Services Controller が組み込まれている vCenter Server の再構成、外部 Platform Services Controller への vCenter Server の再ポイントを行うためのプラグイン。
<code>com.vmware.dcli</code>	vAPI ベースの CLI クライアント。
<code>com.vmware.nslookup</code>	ドメイン名システム (DNS) に照会してドメイン名または IP アドレスマッピングを取得するため、またはその他の特定の DNS レコードを照会するために使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.pgrep</code>	すべての名前付きプロセスの検索に使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.pgtop</code>	PostgreSQL データベースの監視に使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.ping</code>	リモート ホストへの ping の実行に使用できるプラグイン。bin/ping と同じ引数を使用できます。
<code>com.vmware.ping6</code>	リモート ホストへの ping の実行に使用できるプラグイン。bin/ping6 と同じ引数を使用できます。
<code>com.vmware.portaccess</code>	ホストのポート アクセスのトラブルシューティングに使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.ps</code>	実行プロセスの統計の表示に使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.rvc</code>	Ruby vSphere Console。
<code>com.vmware.service-control</code>	VMware サービスの管理に使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.shell</code>	アプライアンス Bash シェルへのアクセスを許可するプラグイン。

表 4-2. vCenter Server Appliance で使用できるプラグイン（続き）

プラグイン	説明
<code>com.vmware.showlog</code>	ログ ファイルの参照に使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.shutdown</code>	アプライアンスの再起動またはパワーオフに使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.software-packages</code>	アプライアンスのソフトウェア パッケージの更新に使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.support-bundle</code>	ローカル ファイル システムにバンドルを作成し、そのバンドルをリモート Linux システムにエクスポートするために使用できるプラグイン。このプラグインを <code>stream</code> コマンドとともに使用する場合は、サポート バンドルはローカル ファイル システムに作成されず、リモート Linux システムに直接エクスポートされます。
<code>com.vmware.top</code>	プロセス情報を表示するプラグイン。/usr/bin/top/ と同じ引数を使用できます。
<code>com.vmware.tracepath</code>	ネットワーク ホストへのパスをトレースするプラグイン。/sbin/tracepath と同じ引数を使用できます。
<code>com.vmware.tracepath6</code>	ネットワーク ホストへのパスをトレースするプラグイン。/sbin/tracepath6 と同じ引数を使用できます。
<code>com.vmware.updatemgr-util</code>	VMware Update Manager の構成に使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.vcenter-restore</code>	vCenter Server のリストアに使用できるプラグイン。
<code>com.vmware.vimtop</code>	vSphere サービスとそのリソースの使用状況のリストを表示するために使用できるプラグイン。

showlog プラグインを使用したログ ファイルの参照

vCenter Server Appliance ログ ファイルを参照して、エラーを確認できます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、ログインします。
- 2 `showlog` コマンドを入力してスペースを 1 つ追加し、Tab キーを押して、`/var/log` フォルダのすべての内容を表示します。
- 3 vCenter Server Appliance の `firstboot` ログ ファイルを表示するコマンドを実行します。

```
showlog /var/log/firstboot/cloudvm.log
```

vCenter Server Appliance シェルの API コマンド

vCenter Server Appliance の API コマンドを使用すると、vCenter Server Appliance のさまざまな管理タスクを実行できます。これらの API コマンドは、vCenter Server Appliance のアプライアンス管理サービスによっ

て提供されます。時刻同期設定の編集、プロセスとサービスの監視、SNMP 設定のセットアップなどを実行できます。

表 4-3. vCenter Server Appliance で使用可能な API コマンド

API コマンド	説明
<code>com.vmware.appliance.health.applmgmt.get</code>	applmgmt サービスの健全性情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.health.databasesstorage.get</code>	データベースストレージの健全性情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.health.load.get</code>	CPU 負荷の健全性情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.health.mem.get</code>	メモリの健全性情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.health.softwarepackages.get</code>	システム更新の健全性情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.health.storage.get</code>	ストレージ全体の健全性情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.health.swap.get</code>	スワップの健全性情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.health.system.get</code>	システムの健全性情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.health.system.lastcheck</code>	前回健全性ステータスが確認された時刻を取得します。
<code>com.vmware.appliance.monitoring.list</code>	監視対象の項目の一覧を取得します。
<code>com.vmware.appliance.monitoring.get</code>	監視対象の項目の情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.monitoring.query</code>	監視対象の項目に関して一連の値を照会します。
<code>com.vmware.appliance.recovery.backup.job.cancel</code>	バックアップジョブを id でキャンセルします。
<code>com.vmware.appliance.recovery.backup.job.create</code>	バックアップジョブを開始します。
<code>com.vmware.appliance.recovery.backup.job.get</code>	バックアップジョブのステータスを id で取得します。
<code>com.vmware.appliance.recovery.backup.job.list</code>	バックアップジョブの一覧を取得します。
<code>com.vmware.appliance.recovery.backup.parts.list</code>	バックアップジョブに含めることができる vCenter Server コンポーネントのリストを取得します。
<code>com.vmware.appliance.recovery.backup.parts.get</code>	バックアップ対象に関する詳細情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.recovery.backup.validate</code>	ジョブを開始せずにバックアップジョブのパラメータを検証します。
<code>com.vmware.appliance.recovery.restore.job.cancel</code>	リストアジョブをキャンセルします。
<code>com.vmware.appliance.recovery.restore.job.create</code>	リストアジョブを開始します。
<code>com.vmware.appliance.recovery.restore.job.get</code>	リストアジョブのステータスを取得します。

表 4-3. vCenter Server Appliance で使用可能な API コマンド (続き)

API コマンド	説明
<code>com.vmware.appliance.recovery.restore.validate</code>	ジョブを開始せずにリストア ジョブのリストア パラメータを検証します。
<code>com.vmware.appliance.system.uptime.get</code>	システムの連続稼働時間を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.access.consolecli.get</code>	コンソール ベースの制御された CLI (TTY1) の状態に関する情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.access.consolecli.set</code>	コンソール ベースの制御された CLI (TTY1) の有効な状態を設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.access.dcu.get</code>	ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイス (DCUI TTY2) の状態に関する情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.access.dcu.set</code>	ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイス (DCUI TTY2) の有効な状態を設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.access.shell.get</code>	Bash シェルの状態、つまり、制御された CLI 内からの Bash シェルへのアクセスに関する情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.access.shell.set</code>	Bash シェルの有効な状態、つまり、制御された CLI 内からの Bash シェルへのアクセスに関する情報を設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.access.ssh.get</code>	SSH ベースの制御された CLI の有効な状態を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.access.ssh.set</code>	SSH ベースの制御された CLI の有効な状態を設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.localaccounts.user.add</code>	新しいローカル ユーザー アカウントを作成します。
<code>com.vmware.appliance.version1.localaccounts.user.delete</code>	ローカル ユーザー アカウントを削除します。
<code>com.vmware.appliance.version1.localaccounts.user.get</code>	ローカル ユーザー アカウント情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.localaccounts.user.list</code>	ローカル ユーザー アカウントを一覧表示します。
<code>com.vmware.appliance.version1.localaccounts.user.password.update</code>	ログインしているユーザー、または <code>username</code> パラメータで指定されたユーザーのパスワードを更新します。
<code>com.vmware.appliance.version1.localaccounts.user.set</code>	ローカル ユーザー アカウントのプロパティ (ロール、フル ネーム、有効なステータス、パスワードなど) を更新します。
<code>com.vmware.appliance.version1.monitoring.snmp.disable</code>	有効な SNMP エージェントを停止します。
<code>com.vmware.appliance.version1.monitoring.snmp.enable</code>	無効な SNMP エージェントを開始します。
<code>com.vmware.appliance.version1.monitoring.snmp.get</code>	SNMP エージェントの構成を返します。

表 4-3. vCenter Server Appliance で使用可能な API コマンド (続き)

API コマンド	説明
<code>com.vmware.appliance.version1.monitoring.snmp.hash</code>	セキュアな SNMPv3 通信用のローカライズされたキーを生成します。
<code>com.vmware.appliance.version1.monitoring.snmp.limits</code>	SNMP の制限情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.monitoring.snmp.reset</code>	工場出荷時のデフォルト設定をリストアします。
<code>com.vmware.appliance.version1.monitoring.snmp.set</code>	SNMP 構成を設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.monitoring.snmp.stats</code>	SNMP エージェントの診断レポートを生成します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.dns.domains.add</code>	DNS 検索ドメインにドメインを追加します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.dns.domains.list</code>	DNS 検索ドメインの一覧を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.dns.domains.set</code>	DNS 検索ドメインを設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.dns.hostname.get</code>	完全修飾ドメイン名を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.dns.hostname.set</code>	完全修飾ドメイン名を設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.dns.servers.add</code>	DNS サーバを追加します。DHCP を使用している場合、この方法は失敗します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.dns.servers.get</code>	DNS サーバ構成を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.dns.servers.set</code>	DNS サーバ構成を設定します。DHCP を使用して DNS サーバとホスト名を取得するようホストが構成されている場合は、DHCP が強制的に更新されます。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.firewall.addr.inbound.add</code>	受信 IP アドレスからのアクセスを許可または拒否するファイアウォール ルールを追加します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.firewall.addr.inbound.delete</code>	指定された位置の特定のルールまたはすべてのルールを削除します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.firewall.addr.inbound.list</code>	ファイアウォール ルールによって許可または拒否される受信 IP アドレスの順序が記載されたリストを取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.interfaces.get</code>	特定のネットワーク インターフェイスに関する情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.interfaces.list</code>	使用可能なネットワーク インターフェイス (未構成のインターフェイスも含む) のリストを取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.ipv4.get</code>	インターフェイスの IPv4 ネットワーク設定を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.ipv4.list</code>	すべての構成済みインターフェイスの IPv4 ネットワーク設定を取得します。

表 4-3. vCenter Server Appliance で使用可能な API コマンド (続き)

API コマンド	説明
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.ipv4.renew</code>	インターフェイスの IPv4 ネットワーク設定を更新します。DHCP を使用して IP アドレスを割り当てるようにインターフェイスが設定されている場合は、インターフェイスのリースが更新されます。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.ipv4.set</code>	インターフェイスの IPv4 ネットワークを設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.ipv6.get</code>	インターフェイスの IPv6 ネットワーク設定を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.ipv6.list</code>	すべての構成済みインターフェイスの IPv6 ネットワーク設定を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.ipv6.set</code>	インターフェイスの IPv6 ネットワーク設定を設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.routes.add</code>	固定ルーティング ルールを追加します。 0.0.0.0/0 (IPv4 の場合) または ::/0 (IPv6 の場合) という宛先またはプリフィックスは、デフォルト ゲートウェイを意味します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.routes.delete</code>	固定ルーティング ルールを削除します。
<code>com.vmware.appliance.version1.networking.routes.list</code>	ルーティング テーブルを取得します。 0.0.0.0/0 (IPv4 の場合) または ::/0 (IPv6 の場合) という宛先またはプリフィックスは、デフォルト ゲートウェイを意味します。
<code>com.vmware.appliance.version1.ntp.get</code>	NTP 設定を取得します。 <code>timesync.get</code> コマンドを実行すれば、(NTP または VMware Tools を使用して) 現在の時刻同期方法を取得できます。 <code>ntp.get</code> は、時刻同期方法が NTP に設定されていない場合でも、常に NTP サーバ情報を返します。NTP を使用して時刻同期方法を設定しないと、NTP ステータスはダウンと表示されます。
<code>com.vmware.appliance.version1.ntp.server.add</code>	NTP サーバを追加します。このコマンドにより、NTP サーバを設定できます。時刻同期が NTP ベースの場合は、NTP デーモンが再起動され、新規の NTP サーバが再ロードされます。時刻同期が NTP ベース以外の場合、このコマンドにより、NTP 設定へのサーバの追加のみが実行されます。
<code>com.vmware.appliance.version1.ntp.server.delete</code>	NTP サーバを削除します。このコマンドにより、NTP サーバの設定を削除します。時刻同期モードが NTP ベースの場合は、NTP デーモンが再起動され、新規の NTP 設定が再ロードされます。時刻同期モードが NTP ベース以外の場合、このコマンドによって実行されるのは NTP を設定したサーバの削除のみです。

表 4-3. vCenter Server Appliance で使用可能な API コマンド (続き)

API コマンド	説明
<code>com.vmware.appliance.version1.ntp.server.set</code>	NTP サーバを設定します。このコマンドにより、古い NTP サーバの設定が削除され、入力した NTP サーバが新たに設定されます。NTP を使用して時刻同期を設定すると、NTP デーモンが再起動され、新規の NTP 設定が再ロードされます。時刻同期が NTP ベース以外の場合、このコマンドにより、NTP 設定へのサーバの置換のみが実行されます。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.cpu.stats.get</code>	CPU 統計情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.load.health.get</code>	ロードの健全性を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.load.stats.get</code>	(1 分、5 分、15 分間隔の) 平均ロードを取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.mem.health.get</code>	メモリの健全性を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.mem.stats.get</code>	メモリ統計情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.net.stats.get</code>	ネットワーク統計情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.net.stats.list</code>	稼働中のすべてのインターフェイスのネットワーク統計情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.processes.stats.list</code>	すべてのプロセスの統計情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.softwarepackages.health.get</code>	更新コンポーネントの健全性情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.storage.health.get</code>	ストレージの健全性統計情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.storage.stats.list</code>	各論理ディスクのストレージ統計情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.swap.health.get</code>	スワップの健全性を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.swap.stats.get</code>	スワップの統計情報を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.system.health.get</code>	システムの全般的な健全性を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.resources.system.stats.get</code>	システムのステータスを取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.services.list</code>	すべての既知のサービスの一覧を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.services.restart</code>	サービスを再起動します。
<code>com.vmware.appliance.version1.services.status.get</code>	サービスのステータスを取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.services.stop</code>	サービスを停止します。
<code>com.vmware.appliance.version1.system.storage.list</code>	パーティション マッピングするディスクを取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.system.storage.resize</code>	すべてのパーティションのサイズを 100% のディスク サイズに変更します。

表 4-3. vCenter Server Appliance で使用可能な API コマンド (続き)

API コマンド	説明
<code>com.vmware.appliance.version1.system.time.get</code>	システム時刻を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.system.update.get</code>	URL ベースのバッチ適用設定を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.system.update.set</code>	URL ベースのバッチ適用設定を設定します。
<code>com.vmware.appliance.version1.system.version.get</code>	アプライアンスのバージョンを取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.timesync.get</code>	時刻同期設定を取得します。
<code>com.vmware.appliance.version1.timesync.set</code>	時刻同期設定を設定します。

vCenter Server Appliance の SNMP の構成

vCenter Server Appliance には SNMP エージェントが含まれており、トラップ通知の送信と、GET、GETBULK、および GETNEXT 要求の受信を行うことができます。

vCenter Server Appliance SNMP エージェントの有効化と構成には、アプライアンス シェルの API コマンドを使用できます。SNMP v1/v2c または SNMP v3 のどれを使用するかによって、エージェントの構成方法が異なります。

SNMP v3 インフォームはサポートされていません。vCenter Server Appliance は、すべてのセキュリティ レベルにおいて、v1、v2c、および v3 トラップなどの通知のみをサポートします。

ポーリングを行う SNMP エージェントの構成

ポーリングを行うように vCenter Server Appliance SNMP エージェントを構成すると、SNMP 管理クライアント システムからの要求 (GET、GETNEXT、GETBULK など) を待機し、応答できるようになります。

デフォルトで、組み込み SNMP エージェントは、UDP ポート 161 で管理システムからのポーリング要求を待機します。snmp.set --port コマンドを使用して、代替ポートを構成できます。SNMP エージェント用のポートと他のサービスのポート間で競合が発生しないように、/etc/services に定義されていない UDP ポートを使用してください。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 snmp.set --port コマンドを実行してポートを構成します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --port port
```

ここで、*port* は、SNMP エージェントがポーリング要求を待機するために使用するポートです。

重要: ここに、他のサービスによってすでに使用されているポートを指定してはなりません。動的範囲 (49152 番以上のポート) の IP アドレスを使用してください。

- 3 (オプション) SNMP エージェントが有効になっていない場合は、`snmp.enable` コマンドを実行して有効にします。

SNMP v1 および v2c 用の vCenter Server Appliance の構成

SNMP v1 および v2c 用に vCenter Server Appliance SNMP エージェントを構成すると、通知の送信および GET 要求の受信がエージェントでサポートされます。

SNMP v1 および v2c では、コミュニティ スtring は 1 つ以上の管理対象オブジェクトを含むネームスペースです。ネームスペースは認証のフォームとして機能することはできますが、通信は保護されません。通信を保護するには、SNMP v3 を使用します。

手順

1 SNMP コミュニティの構成

SNMP v1 および v2c メッセージを送受信するために vCenter Server Appliance SNMP エージェントを有効にするには、エージェント用に少なくとも 1 つのコミュニティを構成する必要があります。

2 v1 または v2c 通知を送信する SNMP エージェントの構成

vCenter Server Appliance SNMP エージェントを使用して、仮想マシン通知および環境通知を管理システムに送信できます。

SNMP コミュニティの構成

SNMP v1 および v2c メッセージを送受信するために vCenter Server Appliance SNMP エージェントを有効にするには、エージェント用に少なくとも 1 つのコミュニティを構成する必要があります。

SNMP コミュニティは、デバイスと管理システムのグループを定義します。同じコミュニティのメンバーであるデバイスおよび管理システムだけが、SNMP メッセージを交換できます。デバイスまたは管理システムは、複数のコミュニティのメンバーになることができます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは `root` です。

- 2 `snmp.set --communities` コマンドを実行して、SNMP コミュニティを構成します。

たとえば、パブリック、東、および西のネットワーク オペレーション センターのコミュニティを構成するには、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --communities public,eastnoc,westnoc
```

このコマンドでコミュニティを指定するたびに、指定した設定によって、以前の構成が上書きされます。

複数のコミュニティを指定するには、コミュニティ名をコンマで区切ります。

v1 または v2c 通知を送信する SNMP エージェントの構成

vCenter Server Appliance SNMP エージェントを使用して、仮想マシン通知および環境通知を管理システムに送信できます。

SNMP エージェントで SNMP v1 および v2c 通知を送信するには、ターゲットつまり受信者のユニキャストアドレス、コミュニティ、および必要に応じてポートを構成する必要があります。ポートを指定しない場合、SNMP エージェントはデフォルトで、ターゲット管理システムの UDP ポート 162 に通知を送信します。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 `snmp.set --targets` コマンドを実行します。

```
snmp.set --targets target_address@port/community
```

ここで、*target_address*、*port*、*community*には、それぞれ、ターゲット システムのアドレス、通知の送信先のポート番号、コミュニティ名を指定します。ポートの値は任意です。ポートを指定しない場合、デフォルトのポート 161 が使用されます。

このコマンドでターゲットを指定するたびに、指定した設定によって、以前指定された設定が上書きされます。複数のターゲットを指定するには、コンマで区切ります。

たとえば、ターゲットの `192.0.2.1@678/targetcommunity` および `2001:db8::1/anothercom` を構成するには、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --targets 192.0.2.1@678/targetcommunity,2001:db8::1/anothercom
```

- 3 (オプション) SNMP エージェントが有効になっていない場合は、`snmp.enable` コマンドを実行して有効にします。
- 4 (オプション) `snmp.test` コマンドを実行し、テスト トラップを送信してエージェントが正しく構成されていることを確認します。

エージェントは、構成されたターゲットに `warmStart` トラップを送信します。

SNMP v3 用の vCenter Server Appliance の構成

SNMP v3 用に SNMP エージェントを構成すると、トラップの送信がエージェントでサポートされます。SNMP v3 には、暗号化認証や暗号化など、v1 または v2c よりも強化されたセキュリティを備えられています。

SNMP v3 インフォームはサポートされていません。vCenter Server Appliance は、すべてのセキュリティ レベルでの v1/v2c トラップ、v3 トラップなどの通知のみをサポートします。

手順

1 SNMP エンジン ID の構成

すべての SNMP v3 エージェントには、エージェントの一意的識別子として使用されるエンジン ID があります。エンジン ID は、ハッシュ関数を使用して、SNMP v3 メッセージの認証と暗号化のためのローカライズされたキーを生成するときに使用されます。

2 SNMP 認証およびプライバシー プロトコルの構成

SNMP v3 は、オプションとして認証およびプライバシー プロトコルをサポートしています。

3 SNMP ユーザーの設定

SNMP v3 情報にアクセスできるユーザーを、5 人まで設定できます。ユーザー名は、32 文字以下にする必要があります。

4 SNMP v3 ターゲットの構成

SNMP エージェントによる SNMP v3 トラップの送信が許可されるように SNMP v3 ターゲットを構成します。

SNMP エンジン ID の構成

すべての SNMP v3 エージェントには、エージェントの一意的識別子として使用されるエンジン ID があります。エンジン ID は、ハッシュ関数を使用して、SNMP v3 メッセージの認証と暗号化のためのローカライズされたキーを生成するときに使用されます。

SNMP エージェントを有効化する前にエンジン ID が指定されていない場合は、スタンドアロンの SNMP エージェントを有効化すると、エンジン ID が生成されます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 `snmp.set --engineid` コマンドを実行してターゲットを構成します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --engineid 80001adc802417e202b8613f5400000000
```

ここで、80001adc802417e202b8613f5400000000 は ID (5 ~ 32 文字の 16 進文字列) です。

SNMP 認証およびプライバシー プロトコルの構成

SNMP v3 は、オプションとして認証およびプライバシー プロトコルをサポートしています。

認証は、ユーザーの ID を確認するために使用します。プライバシーを使用すると、SNMP v3 メッセージを暗号化してデータの機密性を保証できます。プライバシー プロトコルは、セキュリティのためにコミュニティ文字列を使用する SNMP v1 および v2c より高いレベルのセキュリティを備えています。

認証およびプライバシーは、どちらもオプションです。ただし、プライバシーを有効にする場合は、認証を有効にする必要があります。

SNMP v3 の認証およびプライバシー プロトコルはライセンス供与されている vSphere 機能であり、一部の vSphere エディションでは使用できない可能性があります。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 (オプション) `snmp.set --authentication` コマンドを実行して、認証を構成します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --authentication protocol
```

ここで *protocol* には、**none** (認証なし)、**SHA1**、または **MD5** のいずれかを指定します。

- 3 (オプション) `snmp.set --privacy` コマンドを実行して、プライバシー プロトコルを構成します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --privacy protocol
```

ここで *protocol* には、**none** (プライバシーなし) または **AES128** を指定します。

SNMP ユーザーの設定

SNMP v3 情報にアクセスできるユーザーを、5 人まで設定できます。ユーザー名は、32 文字以下にする必要があります。

ユーザーを設定するには、ユーザーユーザーの認証パスワードおよびプライバシー パスワードと SNMP エージェントのエンジン ID に基づいて、認証およびプライバシーのハッシュ値が生成されます。ユーザーの設定後にエンジン ID、認証プロトコル、またはプライバシー プロトコルを変更した場合、ユーザーは無効になり、再設定が必要になります。

前提条件

- ユーザーを設定する前に、認証プロトコルとプライバシー プロトコルが設定されていることを確認します。
- 設定する各ユーザーの認証パスワードとプライバシー パスワードを確認します。パスワードは 8 文字以上にする必要があります。これらのパスワードは、ホスト システムのファイルに保存します。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 認証またはプライバシー保護を使用している場合は、`snmp.hash --auth_hash --priv_hash` コマンドを実行して、ユーザーの認証およびプライバシー保護のハッシュ値を取得します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
snmp.hash --auth_hash secret1 --priv_hash secret2
```

ここで *secret1* はユーザーの認証パスワードが含まれるファイルへのパスで、*secret2* はユーザーのプライバシーパスワードが含まれるファイルへのパスです。または、`--raw_secret` フラグを指定して、ブール値パラメータを *true* に設定できます。

認証とプライバシーのハッシュ値が表示されます。

- 3 `snmp.set --user` を実行して、ユーザーを構成します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --user userid/authhash/privhash/security
```

コマンドのパラメータは次のとおりです。

パラメータ	説明
<i>userid</i>	ユーザー名で置き換えます。
<i>authhash</i>	認証ハッシュ値で置き換えます。
<i>privhash</i>	プライバシー ハッシュ値で置き換えます。
<i>security</i>	ユーザーに対して有効なセキュリティ レベルで置き換えます。 auth (認証のみ)、 priv (認証とプライバシー保護)、 none (認証もプライバシー保護もなし) のいずれかを指定できます。

SNMP v3 ターゲットの構成

SNMP エージェントによる SNMP v3 トラップの送信が許可されるように SNMP v3 ターゲットを構成します。

最大 3 つの SNMP v1 または v2c ターゲットに加えて、SNMP v3 ターゲットを 3 つまで構成できます。

ターゲットを構成するには、トラップを受信するシステムのホスト名または IP アドレス、ユーザー名、セキュリティ レベル、およびトラップを送信するかどうかを指定する必要があります。セキュリティ レベルには、**none** (セキュリティなし)、**auth** (認証のみ)、または **priv** (認証とプライバシー) を指定できます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは `root` です。

- 2 `snmp.set --v3targets` コマンドを実行して、SNMP v3 ターゲットを設定します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --v3targets hostname@port/userid/secLevel/trap
```

コマンドのパラメータは次のとおりです。

パラメータ	説明
<i>hostname</i>	トラップを受信する管理システムのホスト名または IP アドレスで置き換えます。
<i>port</i>	トラップを受信する管理システムのポートで置き換えます。ポートを指定しない場合、デフォルトのポート 161 が使用されます。
<i>userid</i>	ユーザー名で置き換えます。
<i>secLevel</i>	none 、 auth 、 priv のいずれかで置き換えて、構成した認証とプライバシーのレベルを示します。認証のみを構成した場合は auth 、認証とプライバシーの両方を構成した場合は priv 、どちらも構成していない場合は none を使用します。

- 3 (オプション) SNMP エージェントが有効になっていない場合は、`snmp.enable` コマンドを実行して有効にします。
- 4 (オプション) `snmp.test` コマンドを実行し、テストトラップを送信してエージェントが正しく構成されていることを確認します。

エージェントは、構成されたターゲットに `warmStart` トラップを送信します。

通知をフィルタリングするように SNMP エージェントを構成する

SNMP 管理ソフトウェアが通知を受信しないようにする場合は、それらの通知を除外するように vCenter Server Appliance SNMP エージェントを構成します。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは `root` です。

- 2 `snmp.set --notraps` コマンドを実行してトラップをフィルタリングします。

- 特定のトラップをフィルタリングするには、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --notraps oid_list
```

ここで、*oid_list* は、フィルタリングするトラップのオブジェクト ID のコンマ区切りリストです。このリストは、以前このコマンドを使用して指定したオブジェクト ID をすべて置き換えます。

- すべてのトラップ フィルタをクリアするには、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --notraps reset
```

- 3 (オプション) SNMP エージェントが有効になっていない場合は、`snmp.enable` コマンドを実行して有効にします。

結果

指定したオブジェクト ID で特定されるトラップは、SNMP エージェントの出力から除外され、SNMP 管理ソフトウェアには送られません。

SNMP 管理クライアント ソフトウェアの構成

トラップを送信するように vCenter Server Appliance を構成したら、これらのトラップを受信して解釈するように、管理クライアント ソフトウェアを構成する必要があります。

管理クライアント ソフトウェアを構成するには、管理対象デバイスのコミュニティを指定し、ポート設定を構成し、VMware MIB ファイルをロードします。これらのステップの具体的な説明については、管理システムのドキュメントを参照してください。

前提条件

VMware MIB ファイルを <https://kb.vmware.com/s/article/1013445> からダウンロードします。

手順

- 1 管理ソフトウェアで、SNMP ベースの管理対象デバイスとして vCenter Server Appliance を指定します。
- 2 SNMP v1 または v2c を使用している場合は、適切なコミュニティ名を管理ソフトウェアに設定します。
これらの名前は、vCenter Server Appliance での SNMP エージェントのコミュニティ設定と一致している必要があります。
- 3 SNMP v3 を使用している場合は、vCenter Server Appliance で設定されたプロトコルと一致するように、ユーザー、認証、プライバシー プロトコルを設定します。
- 4 デフォルトの UDP ポート 162 以外の管理システムのポートにトラップを送信するように SNMP エージェントを構成した場合、構成したポートで待機するように管理クライアント ソフトウェアを構成します。
- 5 VMware MIB を管理ソフトウェアにロードします。これにより、vCenter Server Appliance 変数のシンボル名が表示されます。

検索エラーを防ぐために、他の MIB ファイルをロードする前に、次の順序で MIB ファイルをロードします。

- a VMWARE-ROOT-MIB.mib
- b VMWARE-TC-MIB.mib
- c VMWARE-PRODUCTS-MIB.mib

結果

これで、管理ソフトウェアが vCenter Server Appliance からのトラップを受信し、解釈できるようになります。

工場出荷時の設定への SNMP 設定のリセット

SNMP 設定を工場出荷時の設定にリセットできます。また、特定の引数の値を工場出荷時の設定にリセットすることもできます。

コミュニティやターゲットなどの特定の引数をリセットすることができます。また、SNMP 構成を工場出荷時の設定にリセットすることもできます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 特定の引数をリセットするには、コマンド `snmp.set --arguments reset` を実行します。

たとえば、構成したコミュニティをリセットするには、次のコマンドを実行します。

```
snmp.set --communities reset
```

- 3 SNMP 構成全体を工場出荷時の設定にリセットするには、コマンド `snmp.reset` を実行します。

vCenter Server Appliance の時刻同期設定の構成

デプロイ後、vCenter Server Appliance の時刻同期設定を変更できます。

vCenter Server Appliance をデプロイする場合は、NTP サーバまたは VMware Tools を使用して、時刻同期方法を選択できます。vSphere ネットワークの時刻設定が変更された場合は、アプライアンス シェルのコマンドを使用して、vCenter Server Appliance を編集し、時刻同期設定を構成します。

定期的な時刻同期を有効にすると、VMware Tools はゲスト OS の時刻をホストの時刻と一致させます。

時刻同期が実行された後、VMware Tools は毎分、ゲスト OS の時計とホストの時計が一致しているかどうかを確認します。一致していない場合は、ゲスト OS の時計がホストの時計と一致するよう同期がとられます。

一般に、Network Time Protocol (NTP) などのネイティブの時刻同期ソフトウェアのほうが VMware Tools による定期的な時刻同期よりも正確であるため、NTP の使用が推奨されます。vCenter Server Appliance で使用できる定期的な時刻同期の形式は 1 つだけです。ネイティブの時刻同期ソフトウェアと vCenter Server Appliance VMware Tools による定期的な時刻同期のいずれか一方を選択すると、他方は無効化されます。

VMware Tools の時刻同期の使用

VMware Tools の時刻同期を使用するように、vCenter Server Appliance を設定できます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 次のコマンドを実行して、VMware Tools の時刻同期を有効にします。

```
timesync.set --mode host
```

- 3 (オプション) 次のコマンドを実行して、VMware Tools の時刻同期が正常に適用されたことを確認します。

```
timesync.get
```

コマンドにより、時刻同期がホスト モードであることが返されます。

結果

アプライアンスの時刻は ESXi ホストの時刻と同期されます。

vCenter Server Appliance 構成内の NTP サーバの追加または置換

NTP ベースの時刻同期を使用するように vCenter Server Appliance を設定するには、NTP サーバを vCenter Server Appliance 構成に追加する必要があります。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 `ntp.server.add` コマンドを実行して、NTP サーバを vCenter Server Appliance 構成に追加します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
ntp.server.add --servers IP-addresses-or-host-names
```

ここで *IP-addresses-or-host-names* は、NTP サーバの IP アドレスまたはホスト名のコンマ区切りのリストです。

このコマンドにより、NTP サーバが構成に追加されます。時刻同期が NTP サーバに基づいている場合は、NTP デーモンが再起動され、新しい NTP サーバが再ロードされます。そうでない場合は、既存の NTP 構成に新しい NTP サーバが追加されるだけです。

- 3 (オプション) 古い NTP サーバを削除して、新しい NTP サーバを vCenter Server Appliance 構成に追加するには、`ntp.server.set` コマンドを実行します。

たとえば、次のコマンドを実行します。

```
ntp.server.set --servers IP-addresses-or-host-names
```

ここで *IP-addresses-or-host-names* は、NTP サーバの IP アドレスまたはホスト名のコンマ区切りのリストです。

このコマンドにより、古い NTP サーバが構成から削除され、入力された NTP サーバが構成内で設定されます。時刻同期が NTP サーバに基づいている場合は、NTP デーモンが再起動され、新しい NTP 構成が再ロードされます。そうでない場合は、NTP 構成内のサーバが、入力値として指定したサーバに置換されるだけです。

- 4 (オプション) 次のコマンドを実行し、NTP 構成の新しい設定が正常に適用されたことを確認します。

```
ntp.get
```

このコマンドは、NTP 同期が構成されているサーバの名前をスペースで区切ったリストを返します。NTP 同期が有効になっていると、このコマンドは [接続中] ステータスの NTP 構成を返します。NTP 同期が無効になっていると、このコマンドは [切断] ステータスの NTP 構成を返します。

次のステップ

NTP 同期が無効になっている場合は、NTP サーバをベースにするように vCenter Server Appliance の時間同期設定を構成できます。 [vCenter Server Appliance と NTP サーバとの時刻同期](#) を参照してください。

vCenter Server Appliance と NTP サーバとの時刻同期

NTP サーバを使用するように vCenter Server Appliance の時刻同期設定を構成できます。

前提条件

vCenter Server Appliance 構成内に 1 つ以上の Network Time Protocol (NTP) サーバを設定します。[vCenter Server Appliance 構成内の NTP サーバの追加または置換](#) を参照してください。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、管理者ロールまたはスーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 次のコマンドを実行して、NTP ベースの時刻同期を有効にします。

```
timesync.set --mode NTP
```

- 3 (オプション) 次のコマンドを実行して、NTP の同期が正常に適用されたことを確認します。

```
timesync.get
```

コマンドにより、時刻同期が NTP モードであることが返されます。

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの管理

スーパー管理者としてアプライアンス シェルにログインすると、アプライアンス シェルでコマンドを実行して vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントを管理できます。スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

vCenter Server Appliance のユーザー ロール

vCenter Server Appliance には、3 つの主要なユーザー ロールがあります。

vCenter Server Appliance のローカル ユーザーには、vCenter Server Appliance のさまざまなタスクを実行する権限があります。vCenter Server Appliance では、次の 3 つのユーザー ロールを使用できます。

オペレーター

オペレーター ユーザー ロールを持つローカル ユーザーは、アプライアンス構成を読み取ることができます。

管理者

管理者ユーザー ロールを持つローカル ユーザーは、アプライアンスを構成できます。

スーパー管理者

スーパー管理者ユーザー ロールを持つローカル ユーザーは、アプライアンスを構成したり、ローカル アカウントを管理したり、Bash シェルを使用したりできます。

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウント リストの取得

ローカル ユーザー アカウントのリストを確認して、アプライアンス シェルから管理するユーザー アカウントを決定できます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、スーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 `localaccounts.user.list` コマンドを実行します。

ローカル ユーザーのリストを確認できます。ユーザーに関する情報には、ユーザー名、ステータス、ロール、パスワードのステータス、フル ネームおよび E メールが含まれます。

注： ローカル ユーザーのリストには、デフォルトのシェルがアプライアンス シェルになっているローカル ユーザーのみが含まれます。

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの作成

vCenter Server Appliance で、新しいローカル ユーザー アカウントを作成できます。

ユーザー ロールの詳細については、[vCenter Server Appliance のユーザー ロール](#)を参照してください。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、スーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 `localaccounts.user.add --role --username --password` コマンドを実行します。

たとえば、オペレータ ユーザー ロールがあるローカル ユーザー アカウント test を追加するには、次のコマンドを実行します。

```
localaccounts.user.add --role operator --username test --password
```

ロールは、**operator**、**admin**、または **superAdmin** になります。

また、新しいローカル ユーザー アカウントを設定し、ユーザーの電子メールとフル ネームを指定することもできます。たとえば、ユーザー ロールがオペレータ、フル ネームが TestName、電子メール アドレスが test1@mymail.com のローカル ユーザー アカウント test1 を追加するには、次のコマンドを実行します。

```
localaccounts.user.add --role operator --username test1 --password --fullname TestName --email test1@mymail.com
```

フル ネームにスペースは使用できません。

- 3 プロンプトが表示されたら、新しいローカル ユーザーのパスワードを入力して確定します。

結果

アプライアンスに新しいローカル ユーザーが作成されます。

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの更新

vCenter Server Appliance で、既存のローカル ユーザー アカウントを更新できます。

ユーザー ロールの詳細については、[vCenter Server Appliance のユーザー ロール](#)を参照してください。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、スーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 `localaccounts.user.set --username` コマンドを実行し、既存のローカル ユーザーを更新します。

- ローカル ユーザーのロールを更新するには、次のコマンドを実行します。

```
localaccounts.user.set --username user name --role new role
```

ここで、*user name* は、編集するユーザーの名前で、*new role* は新しいロールです。ロールは、**operator**、**admin**、または **superAdmin** になります。

- ローカル ユーザーの電子メールを更新するには、次のコマンドを実行します。

```
localaccounts.user.set --username user name --email new email address
```

ここで、*user name* は、編集するユーザーの名前で、*new email address* は新しい電子メール アドレスです。

- ローカル ユーザーのフル ネームを更新するには、次のコマンドを実行します。

```
localaccounts.user.set --username user name --fullname new full name
```

ここで、*user name* は、編集するユーザーの名前で、*new full name* はユーザーの新しいフル ネームです。

- ローカル ユーザーのステータスを更新するには、次のコマンドを実行します。

```
localaccounts.user.set --username user name --status new status
```

ここで、*user name* は、編集するユーザーの名前で、*status* はローカル ユーザーの新しいステータスです。ステータスは、**disabled** か **enabled** のいずれかとなります。

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントの削除

vCenter Server Appliance のローカル ユーザー アカウントを削除することができます。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、スーパー管理者ロールを持つユーザーとしてログインします。

スーパー管理者ロールが割り当てられているデフォルトのユーザーは root です。

- 2 `localaccounts.user.delete --username` コマンドを実行します。

たとえば、`test` というユーザー名のユーザーを削除するには、次のコマンドを実行します。

```
localaccounts.user.delete --username test
```

ユーザーが削除されます。

vCenter Server Appliance の健全性ステータスおよび統計の監視

アプライアンス シェルの API コマンドを使用して、vCenter Server Appliance のハードウェア健全性ステータスを監視できます。使用可能なパッチに関する情報を得るために、更新コンポーネントの健全性ステータスを監視することもできます。

使用可能なパッチの最終チェックに従ってソフトウェア パッケージが最新かどうかを示す更新コンポーネントだけでなく、メモリ、CPU、ストレージ、ネットワークなどのハードウェア コンポーネントのステータスも確認できます。

個々の健全性ステータスは緑、黄、オレンジ、赤、または灰色です。詳細については、[vCenter Server Appliance の健全性ステータスの確認](#)を参照してください。

vCenter Server Appliance システムの統計および健全性の監視に使用できる API コマンドの完全なリストについては、[vCenter Server Appliance シェルの API コマンド](#)を参照してください。

手順

- 1 アプライアンス シェルにアクセスして、ログインします。

オペレータ、管理者、またはスーパー管理者のユーザー ロールを持つユーザーのユーザー名を使用してログインできます。

- 2 個々のコンポーネントの健全性ステータスを表示します。

- vCenter Server Appliance のメモリの健全性を表示するには、`mem.health.get` コマンドを実行します。
- vCenter Server Appliance のストレージの健全性を表示するには、`storage.health.get` コマンドを実行します。
- vCenter Server Appliance のスワップの健全性を表示するには、`swap.health.get` コマンドを実行します。
- vCenter Server Appliance の更新コンポーネントの健全性を表示するには、`softwarepackages.health.get` コマンドを実行します。

重要： 使用可能なパッチの定期的なチェックを実行しないと、更新コンポーネントの健全性ステータスが旧バージョンになることがあります。vCenter Server Appliance パッチのチェックと vCenter Server Appliance パッチの自動チェックの有効化に関する詳細については、『vSphere のアップグレード』を参照してください。

- vCenter Server Appliance システムの全体的な健全性を表示するには、`system.health.get` コマンドを実行します。

- 3 特定のハードウェア コンポーネントに関する統計情報を表示するには、それぞれのコマンドを実行します。

たとえば、各論理ディスクのストレージ統計情報を表示するには、`storage.stats.list` コマンドを実行します。

サービスのリソース使用量を監視する `vimtop` プラグインの使用

`vimtop` コーティリティ プラグインを使用して、vCenter Server Appliance で実行されている vSphere サービスを監視できます。

`vimtop` は `esx` に似たツールで、vCenter Server Appliance の環境で実行されます。アプライアンス シェルで `vimtop` のテキストベースのインターフェイスを使用することにより、vCenter Server Appliance に関する全体的な情報、および vSphere サービスの一覧とそのリソースの使用状況を表示することができます。

- **対話モードでの `vimtop` を使用したサービスの監視**

`vimtop` プラグインを使用して、サービスをリアルタイムで監視できます。

- **対話モードのコマンドライン オプション**

`vimtop` コマンドを使用する場合は、対話モードでさまざまなコマンドライン オプションを使用してプラグインにアクセスできます。

- **`vimtop` の対話モードの単一キー コマンド**

対話モードで実行されている場合、`vimtop` は、いくつかの単一キー コマンドを認識します。

対話モードでの `vimtop` を使用したサービスの監視

`vimtop` プラグインを使用して、サービスをリアルタイムで監視できます。

`vimtop` 対話モードのデフォルト ビューは、概要テーブルとメイン テーブルで構成されています。対話モードで単一キー コマンドを使用して、プロセスからディスクまたはネットワークにビューを切り替えることができます。

手順

- 1 SSH クライアント アプリケーションから、vCenter Server Appliance シェルにログインします。
- 2 `vimtop` コマンドを実行して、対話モードでプラグインにアクセスします。

対話モードのコマンドライン オプション

`vimtop` コマンドを使用する場合は、対話モードでさまざまなコマンドライン オプションを使用してプラグインにアクセスできます。

表 4-4. 対話モードのコマンドライン オプション

オプション	説明
-h	<code>vimtop</code> のコマンドライン オプションのヘルプを印刷します。
-v	<code>vimtop</code> のバージョン番号を印刷します。

表 4-4. 対話モードのコマンドライン オプション (続き)

オプション	説明
<code>-c filename</code>	ユーザー定義の <code>vimtop</code> 構成ファイルをロードします。 <code>-c</code> オプションを使用しない場合のデフォルト構成ファイルは、 <code>/root/vimtop/vimtop.xml</code> です。 W 単一キー対話コマンドを使用することにより、別のファイル名とパスを指定して、独自の構成ファイルを作成できます。
<code>-n number</code>	<code>vimtop</code> で対話モードを終了するまでの反復実行回数を設定します。 <code>vimtop</code> は、表示の実行回数 (<code>number</code>) を更新して終了します。デフォルト値は 10000 です。
<code>-p / -dseconds</code>	更新間隔を秒単位で設定します。

vimtop の対話モードの単一キー コマンド

対話モードで実行されている場合、`vimtop` は、いくつかの単一キー コマンドを認識します。

対話モードのパネルはすべて、次の表に一覧表示されているコマンドを認識します。

表 4-5. 対話モードの単一キー コマンド

キー名	説明
時	コマンドの概略とセキュア モードの状態を示した、現在のパネルのヘルプ メニューが表示されます。
i	<code>vimtop</code> プラグインの概要パネルの最上部行ビューを表示/非表示にします。
t	vCenter Server インスタンスで現在実行されているタスクに関する情報が表示される概要パネルの [タスク] セクションを表示/非表示にします。
m	概要パネルの [メモリ] セクションを表示/非表示にします。
f	すべての使用可能な CPU に関する情報が表示される概要パネルの [CPU] セクションを表示/非表示にします。
g	上位 4 つの物理 CPU に関する情報が表示される概要パネルの [CPU] セクションを表示/非表示にします。
スペースバー	現在のペインをすぐに更新します。
p	現在のパネルで、表示されているサービス リソースの使用状況に関する情報を一時停止します。
r	現在のパネルで、表示されているサービス リソースの使用状況に関する情報を更新します。
s	更新間隔を設定します。
q	<code>vimtop</code> プラグインの対話モードを終了します。
k	メイン パネルの [ディスク] ビューを表示します。
o	メイン パネルを [ネットワーク] ビューに切り替えます。
Esc	選択をクリアするか、メイン パネルの [プロセス] ビューに戻ります。
Enter	サービスを選択して追加の詳細を表示します。
n	メイン パネルでのヘッダの名前を表示/非表示にします。
u	メイン パネルでのヘッダの測定単位を表示/非表示にします。

表 4-5. 対話モードの単一キー コマンド (続き)

キー名	説明
左右矢印	列を選択します。
上下矢印	行を選択します。
<, >	選択した列を移動します。
削除	選択した列を削除します。
c	メイン パネルの現在のビューに列を追加します。スペースバーを使用して、表示されたリストの列を追加または削除します。
a	選択した列を昇順に並べ替えます。
d	選択した列を降順に並べ替えます。
z	すべての列の並べ替え順序をクリアします。
l	選択した列の幅を設定します。
x	列の幅をデフォルト値に戻します。
+	選択したアイテムを展開します。
-	選択したアイテムを折りたたみます。
w	現在のセットアップを vimtop 構成ファイルに書き込みます。デフォルトのファイル名は、-c オプションによって指定した名前か、-c オプションを使用していない場合には /root/vimtop/vimtop.xml です。w コマンドによって生成されるプロンプトで別のファイル名を指定することもできます。

ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスを使用して vCenter Server Appliance を設定する

vCenter Server Appliance をデプロイしたら、ネットワーク設定を再構成し、Bash シェルへのアクセスを有効にしてトラブルシューティングできます。ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスにアクセスするには、root としてログインする必要があります。

ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスのホーム ページには、vCenter Server Appliance のサポート バンドルへのリンクがあります。サポート バンドルへのリンクの形式は、<https://appliance-host-name:443/appliance/support-bundle> です。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスへのログイン](#)
- [root ユーザーのパスワードの変更](#)
- [vCenter Server Appliance の管理ネットワークの構成](#)
- [vCenter Server Appliance の管理ネットワークの再起動](#)
- [アプライアンス Bash シェルへのアクセスの有効化](#)
- [トラブルシューティングのためのアプライアンス Bash シェルへのアクセス](#)
- [トラブルシューティングのための vCenter Server サポート バンドルのエクスポート](#)

ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスへのログイン

ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスでは、テキストベースのメニューを使用して、アプライアンスとローカルに通信できます。

手順

- 1 vSphere Web Client または VMware Host Client インベントリの vCenter Server Appliance を参照します。
- 2 vCenter Server Appliance コンソールを開きます。
 - vSphere Web Client から、[サマリ] タブの [コンソールの起動] をクリックします。
 - VMware Host Client から、[コンソール] をクリックし、ドロップダウン メニューからオプションを選択します。
- 3 コンソール ウィンドウの内部をクリックし、F2 を押して、システムをカスタマイズします。

- 4 アプライアンスの root ユーザーのパスワードを入力して、Enter を押します。

重要： 無効な認証情報を 3 回入力すると、root アカウントが 5 分間ロックされます。

結果

ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスにログインしました。vCenter Server Appliance の root ユーザーのパスワードの変更、ネットワーク設定の編集、vCenter Server Appliance Bash シェルへのアクセスを有効にすることができます。

root ユーザーのパスワードの変更

vCenter Server Appliance のダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスへの不正アクセスを回避するために、root ユーザーのパスワードを変更できます。

vCenter Server Appliance のデフォルトの root パスワードは、仮想アプライアンスのデプロイ中に入力するパスワードです。

重要： vCenter Server Appliance の root アカウントのパスワードは、90 日後に期限が切れます。vCenter Server Appliance の Bash シェルに root としてログインし、`chage -M number_of_days -W warning_until_expiration user_name` を実行することによって、アカウントの有効期限を変更できます。root パスワードの有効期限を無限に延長するには、`chage -M -1 -E -1 root` コマンドを実行します。

手順

- 1 vSphere Web Client または VMware Host Client インベントリの vCenter Server Appliance を参照します。
- 2 vCenter Server Appliance コンソールを開きます。
 - vSphere Web Client から、[サマリ] タブの [コンソールの起動] をクリックします。
 - VMware Host Client から、[コンソール] をクリックし、ドロップダウンからオプションを選択します。
- 3 コンソール ウィンドウの内部をクリックし、F2 を押して、システムをカスタマイズします。
- 4 root ユーザーの現在のパスワードを入力して、Enter を押します。
- 5 [ルート パスワードの構成] を選択して、Enter を押します。
- 6 root ユーザーの旧パスワードを入力して、Enter を押します。
- 7 新しいパスワードを設定して、Enter を押します。
- 8 メイン メニューに戻るまで Esc キーを押します。

結果

アプライアンスの root ユーザーのパスワードが変更されました。

vCenter Server Appliance の管理ネットワークの構成

vCenter Server Appliance は、DHCP サーバからネットワーク設定を取得できます。また、固定 IP アドレスを使用することもできます。ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスで、vCenter Server Appliance のネットワーク設定を変更できます。IPv4、IPv6、および DNS 構成を変更できます。

前提条件

アプライアンスの IP アドレスを変更する場合は、アプライアンスのシステム名が完全修飾ドメイン名 (FQDN) であることを確認します。アプライアンスのデプロイ中にシステム名として IP アドレスを設定すると、デプロイ後に IP アドレスを変更できなくなります。システム名は、常にプライマリ ネットワークの識別子として使用されます。

手順

- 1 vCenter Server Appliance のダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 [管理ネットワークの構成] を選択して、Enter を押します。
- 3 [IP 構成] で、IPv4 設定を変更します。

オプション	説明
動的 IP アドレスおよびネットワーク構成を使用	ネットワークに使用可能な DHCP サーバがある場合、DHCP サーバからネットワーク設定を取得します。
固定 IP アドレスおよびネットワーク構成を設定	固定ネットワーク構成を設定します。

- 4 [IPv6 構成] で、IPv6 設定を変更します。

オプション	説明
IPv6 の有効化	アプライアンスの IPv6 を有効または無効にします。
DHCP ステートフル構成を使用	DHCP サーバを使用して、IPv6 アドレスおよびネットワーク設定を取得します。
ICMP ステートレス構成を使用	ステートレス アドレス自動構成 (SLAAC) を使用して、IPv6 アドレスとネットワーク設定を取得します。

- 5 [DNS 構成] で、DNS 設定を変更します。

オプション	説明
DNS サーバ アドレスおよびホスト名を自動的に取得	DNS サーバ アドレスおよびホスト名を自動的に取得します。 アプライアンスの IP 設定が DHCP サーバから自動的に取得される場合は、このオプションを使用します。
次の DNS サーバ アドレスとホスト名を使用	DNS サーバの固定 IP アドレスとホスト名を設定します。

- 6 [カスタム DNS サフィックス] で、カスタム DNS サフィックスを設定します。
サフィックスを指定しない場合は、デフォルトのサフィックス リストがローカル ドメイン名から生成されます。
- 7 ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスのメイン メニューに戻るまで、Esc を押します。

vCenter Server Appliance の管理ネットワークの再起動

vCenter Server Appliance の管理ネットワークを再起動して、ネットワーク接続を復元します。

手順

- 1 vCenter Server Appliance のダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 [管理ネットワークの再起動] を選択して、Enter を押します。
- 3 F11 を押します。

アプライアンス Bash シェルへのアクセスの有効化

アプライアンスのダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスを使用して、アプライアンス Bash シェルへのローカル アクセスおよびリモート アクセスを有効にできます。ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスを使用して有効にした Bash シェル アクセスは、3600 秒間、有効な状態が維持されます。

手順

- 1 vCenter Server Appliance のダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスにログインします。
- 2 [トラブルシューティング オプション] を選択し、Enter キーを押します。
- 3 [トラブルシューティング モード オプション] メニューから、Bash シェルを有効にするか SSH を有効にするかを選択します。
- 4 Enter キーを押してサービスを有効にします。
- 5 ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスのメイン メニューに戻るまで、Esc を押します。

次のステップ

vCenter Server Appliance の Bash シェルにアクセスして、トラブルシューティングを行います。

トラブルシューティングのためのアプライアンス Bash シェルへのアクセス

トラブルシューティングのためにのみ、vCenter Server Appliance シェルにログインします。

手順

- 1 次のいずれかの方法を使用して、アプライアンス シェルにアクセスします。
 - アプライアンスに直接アクセスできる場合は、Alt + F1 を押します。
 - リモート接続する場合は、SSH などのリモート コンソール接続を使用して、アプライアンスへのセッションを開始します。
- 2 アプライアンスで認識されるユーザー名とパスワードを入力します。
- 3 アプライアンス シェルで、`pi shell` または `shell` コマンドを入力して、Bash シェルにアクセスします。

トラブルシューティングのための vCenter Server サポート バンドルのエクスポート

サポート バンドルには、トラブルシューティングに使用されるサポート ログと構成が含まれています。ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスのホーム画面に表示される URL を使用して、vCenter Server Appliance の vCenter Server インスタンスのサポート バンドルをエクスポートできます。

`vc-support.sh` スクリプトを実行することにより、vCenter Server Appliance Bash シェルからサポート バンドルを収集することもできます。

サポート バンドルは、`.tgz` 形式でエクスポートされます。

手順

- 1 バンドルをダウンロードする Windows ホスト マシンにログインします。
- 2 Web ブラウザを開き、ダイレクト コンソール ユーザー インターフェイスに表示されているサポート バンドル への URL を入力します。

`https://appliance-fully-qualified-domain-name:443/appliance/support-bundle`

- 3 ルート ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
- 4 [Enter] をクリックします。

サポート バンドルは、`.tgz` ファイルとして Windows マシンにダウンロードされます。